

# 令和5年度 全国学力・学習状況調査 ～調査結果と指導改善のポイント～ 令和5年9月 釧路市教育委員会

4月18日(火)に実施された「令和5年度全国学力・学習状況調査」について、文部科学省が7月31日(月)に結果を公表した。

この資料は、本調査の釧路市における市立小・中学校及び義務教育学校の児童生徒の学力や学習状況を示すほか、調査結果から読み取ることのできる課題等を分析し、各教科における学習指導の改善に向けたポイント等を示したものである。

## 《調査の概要》

### (1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### (2) 調査の対象とする児童生徒

国・公・私立学校の以下の学年の原則として全児童生徒が対象

ア 小学校調査 小学校第6学年、義務教育学校第6学年

イ 中学校調査 中学校第3学年、義務教育学校第9学年

### (3) 調査事項

ア 児童生徒に対する調査

(ア) 教科に関する調査〔国語、算数・数学、英語(中学校のみ)〕

(イ) 質問紙調査(児童生徒に対する学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査)

イ 学校質問紙調査

(ア) 学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

### (4) 調査問題の内容及び結果

教科に関する調査問題は、国際的な学力調査の考え方や調査結果及び課題等も考慮しつつ、学習指導要領に示された各教科の目標及び内容等に基づいて作成されている。なお、従来の「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」に区分するといった整理は見直され、平成31年度より知識・活用を一体的に問う調査問題となっている。

国からは、調査結果について、学力面において細かい桁における微小な差異は、実質的な違いを示すものではないとして、平均正答率の小数点以下を四捨五入した整数値で結果が提供されているが、本資料においては、釧路市の児童生徒の学力や学習状況を過去の結果と継続的に比較するため、提供されたデータをもとに独自に算出した小数値で釧路市の状況を示している。

## 《集計対象 学校数・児童生徒数》

	小学校調査		中学校調査	
	集計対象学校数	集計対象児童数	集計対象学校数	集計対象児童数
全国(公立)	18,672校	1,019,859人	9,408校	983,778人
釧路市立	26校	987人	15校	958人

※集計対象児童生徒数・学校数は、4月18日に調査を実施した数である。

集計対象児童生徒数は、回収された解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。



# I 本市の状況 ～教科に関する調査結果の概要～

□小学校では、国語において全国平均を上回っている。算数においては全国平均を下回っている。  
 □中学校では、3教科とも全国平均を下回る結果となっている。

## 平均正答率

小学校			中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
全国	67.2	62.5	69.8	51.0	45.6
全道	66 [65.8]	61 [61.0]	69 [69.4]	49 [49.3]	44 [43.9]
釧路市立	<b>68 [67.8]</b>	<b>60 [60.1]</b>	<b>69 [68.7]</b>	<b>48 [47.9]</b>	<b>42 [41.8]</b>
全道比較					
全国との比較	R5	+2.0	-0.9	-0.7	-2.1
		+0.6	-2.4	-1.1	-3.8
	R4	-0.7	-1.7	-1.0	-
	R3	+1.1	-2.4	-2.1	-
	R2	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により未実施		新型コロナウイルス感染症拡大の影響により未実施	
R1	+2.0	-1.2	-4.4	-5.7	-5.6

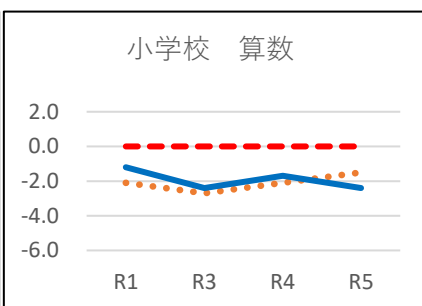
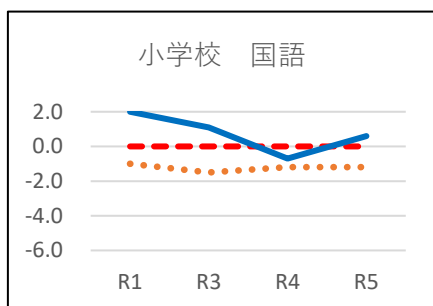
※国は、北海道及び市の平均正答率を整数値で提供。

〔 〕内の小数値は、北海道教育委員会及び釧路市教育委員会が国から提供されたデータをもとに、それぞれ独自に算出した数値である。なお、全国及び全道比較については、独自に算出した数値を比較したものである。

(以下参考数値)					
		基礎	活用	基礎	活用
全国との比較	H30	+0.3	-1.1	-0.9	-3.4
	H29	-1.1	-1.8	-1.2	-4.6
	H28	+0.2	-1.3	-1.5	-2.8
	H27	-1.5	-2.3	-2.2	-3.4
	H26	+0.7	-4.5	-1.3	-5.9
	H25	-3.4	-4.0	-1.3	-5.7
	H24	-5.0	-4.5	-3.7	-4.8
	H22	-5.0	-7.9	-9.6	-6.3

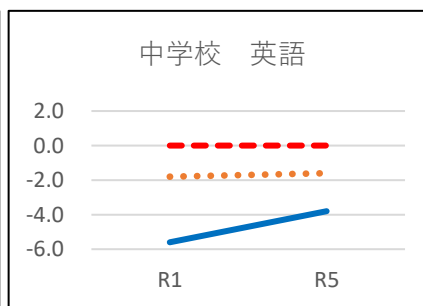
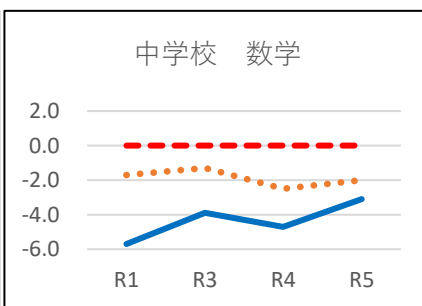
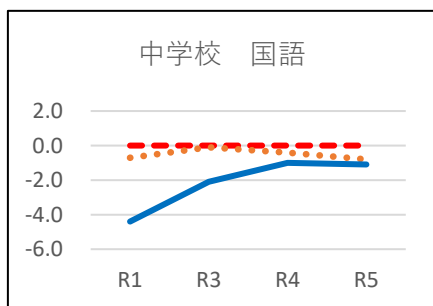
(以下参考数値)					
		基礎	活用	基礎	活用
全国との比較	H30	-0.4	-2.3	-4.2	-4.8
	H29	-2.4	-2.5	-2.5	-3.9
	H28	-1.7	-5.2	-2.1	-3.3
	H27	-1.6	-2.1	-2.5	-3.6
	H26	+0.3	-3.3	-1.6	-3.7
	H25	-2.2	-5.2	-4.5	-6.8
	H24	-2.2	-1.0	-4.3	-6.2
	H22	-1.6	-5.7	-5.7	-7.0

## 全国平均との比較推移



※R2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により未実施  
 ※中学校英語については、R1年度とR5年度に実施

--- 全国  
 ..... 全道  
 — 釧路市



## ◆内容・領域別の平均正答率

### 【小学校】

国語4項目、算数1項目で、全国平均を上回っている。

国語5項目、算数1項目で、全道平均を上回っている。

### 【中学校】

国語1項目で、全国平均を上回っている。

数学、英語の全項目で、全国平均を下回る結果となっている。

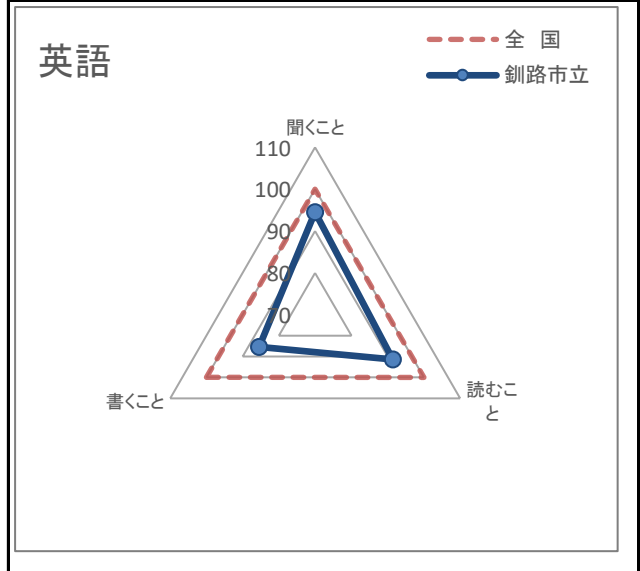
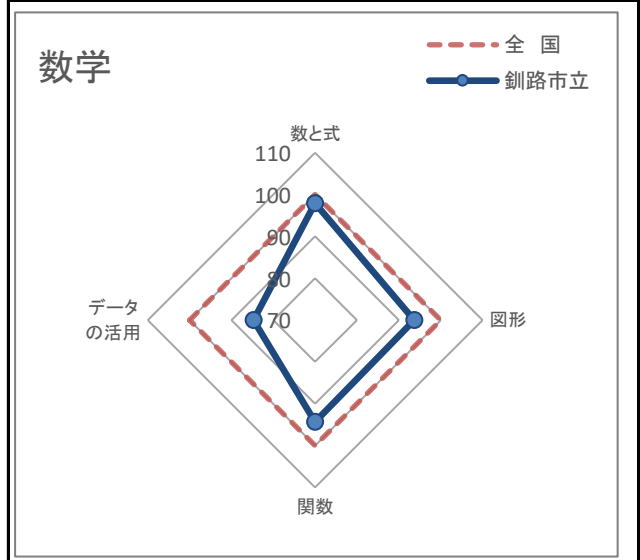
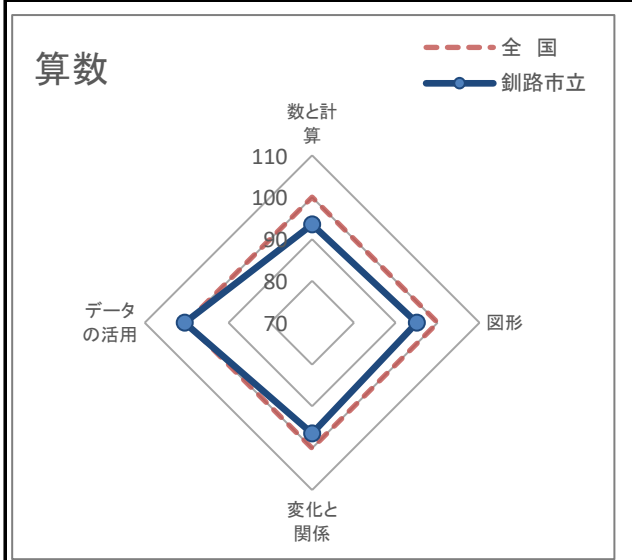
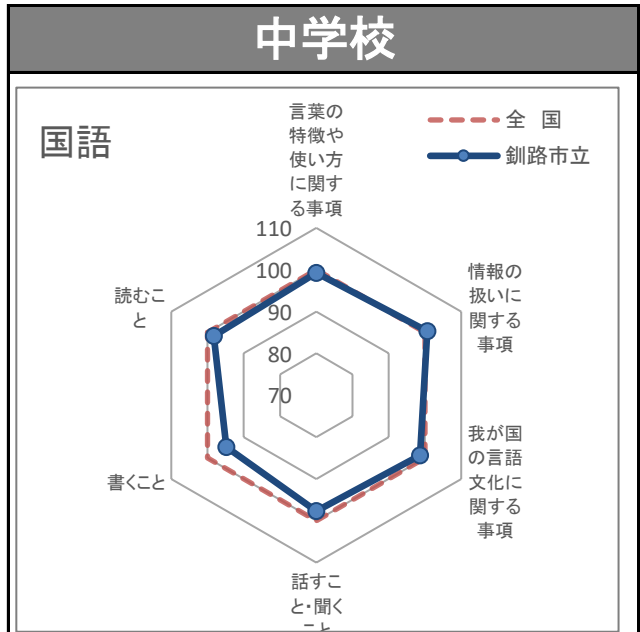
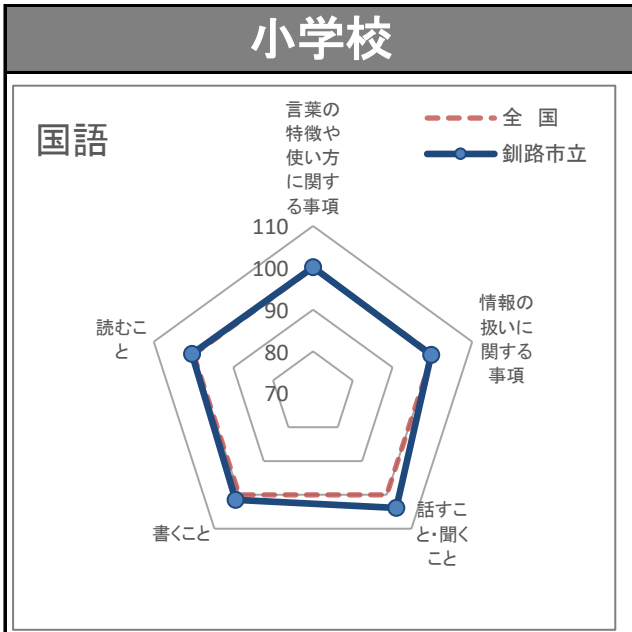
国語2項目で、全道平均を上回っている。

特に、数学の「データの活用」領域において、全国平均を7.4ポイント下回り、課題となっている。

小学校							中学校						
単位(%)							単位(%)						
国語	対象 問題数	全 国	全 道	釧路市立	全国 比較	全道 比較	国語	対象 問題数	全 国	全 道	釧路市立	全国 比較	全道 比較
言葉の特徴や 使い方に関する 事項	5問	71.2	69.7	<b>71.3</b>	+0.1	+1.6	言葉の特徴や 使い方に関する 事項	2問	67.5	66.4	<b>67.0</b>	-0.5	+0.6
情報の扱い方 に関する事項	2問	63.4	61.8	<b>63.2</b>	-0.2	+1.4	情報の扱い方 に関する事項	2問	63.4	63.7	<b>63.8</b>	+0.4	+0.1
話すこと・聞くこ と	3問	72.6	72.0	<b>75.4</b>	+2.8	+3.4	我が国の言語 文化に関する事 項	3問	74.7	74.5	<b>73.7</b>	-1.0	-0.8
書くこと	1問	26.7	23.5	<b>27.1</b>	+0.4	+3.6	話すこと・聞くこ と	3問	82.2	81.8	<b>80.3</b>	-1.9	-1.5
読むこと	3問	71.2	69.7	<b>71.5</b>	+0.3	+1.8	書くこと	2問	63.2	62.1	<b>59.9</b>	-3.3	-2.2
単位(%)							単位(%)						
算数	対象 問題数	全 国	全 道	釧路市立	全国 比較	全道 比較	数学	対象 問題数	全 国	全 道	釧路市立	全国 比較	全道 比較
数と計算	6問	67.3	64.4	<b>62.9</b>	-4.4	-1.5	数と式	5問	63.0	61.7	<b>61.7</b>	-1.3	+0.0
図形	4問	48.2	48.7	<b>45.8</b>	-2.4	-2.9	図形	3問	33.2	32.9	<b>31.1</b>	-2.1	-1.8
変化と関係	4問	70.9	69.0	<b>68.4</b>	-2.5	-0.6	関数	4問	51.2	49.7	<b>48.3</b>	-2.9	-1.4
データの活用	3問	65.5	63.9	<b>65.8</b>	+0.3	+1.9	データの活用	3問	48.5	44.5	<b>41.1</b>	-7.4	-3.4
単位(%)							単位(%)						
英語	対象 問題数	全 国	全 道	釧路市立	全国 比較	全道 比較	英語	対象 問題数	全 国	全 道	釧路市立	全国 比較	全道 比較
							聞くこと	6問	58.4	58.1	<b>55.2</b>	-3.2	-2.9
							読むこと	6問	51.2	48.7	<b>46.8</b>	-4.4	-1.9
							書くこと	5問	23.4	21.1	<b>20.0</b>	-3.4	-1.1

# 【レーダーチャート(内容・領域別)】

全国平均を100とする標準スコア



◆全国平均との比較達成状況一覧

小学校及び義務教育学校前期課程	26校	$P < -5$	$-5 \leq P < -3$	$-3 \leq P < 0$	$0 \leq P < 3$	$3 \leq P < 5$	$5 \leq P$
	国語	5校	3校	4校	9校	1校	4校
		(5校)	(6校)	(2校)	(4校)	(4校)	(5校)
	算数	9校	7校	2校	4校	1校	3校
		(6校)	(7校)	(2校)	(6校)	(2校)	(3校)

\* ( )の校数は、令和4年度の全国平均との比較

中学校及び義務教育学校後期課程	15校	$P < -5$	$-5 \leq P < -3$	$-3 \leq P < 0$	$0 \leq P < 3$	$3 \leq P < 5$	$5 \leq P$
	国語	3校	1校	6校	0校	2校	3校
		(1校)	(3校)	(6校)	(3校)	(0校)	(2校)
	数学	6校	4校	2校	2校	0校	1校
		(7校)	(3校)	(2校)	(0校)	(1校)	(2校)
	英語	8校	1校	4校	1校	0校	1校
		(令和4年度の実施なし)					

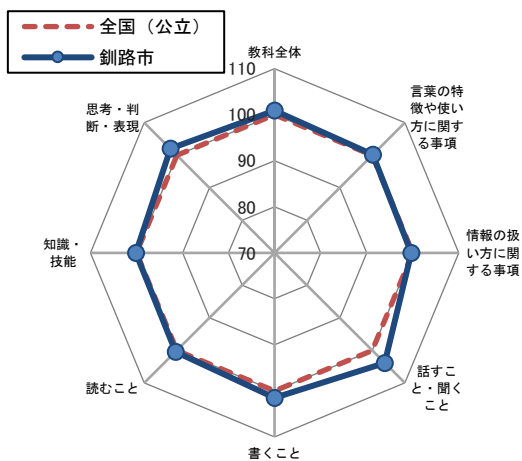
\* ( )の校数は、令和4年度の全国平均との比較

## Ⅱ 各教科の状況と指導改善のポイント

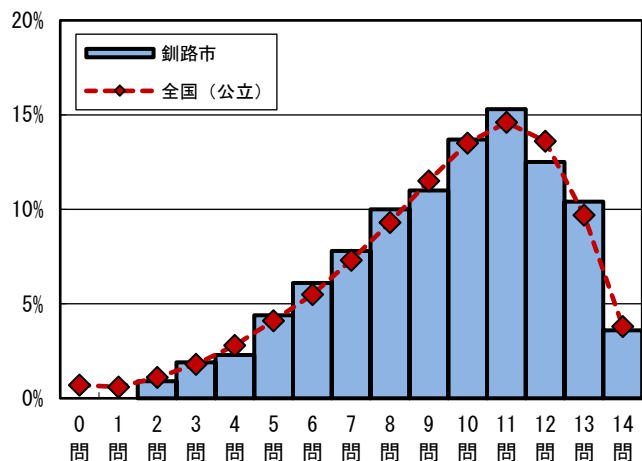
### 1 小学校国語

	児童数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（％）	中央値	標準偏差
釧路市	987	9.5 / 14	68 [67.8]	10.0	2.8
全国（公立）	964,177	9.4 / 14	67.2	10.0	2.9

【標準スコアによるカテゴリー間の比較】



【正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）】



#### 【設問別正答率の概要】（◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題がみられる設問）

- ◇ 「【川村さんの文章】の下線部イを、送り仮名に気を付けて書き直したものとして適切なものを選択する（くらべて）」設問（第5・6学年「言葉の特徴や使い方に関する事項」）は、正答率94.3%（全国平均93.1%）である。〔問題番号1三（2）イ〕
- ◇ 「【川村さんの文章】の特徴の説明として適切なものを選択する」設問（第5・6学年「言葉の特徴や使い方に関する事項」）は、正答率79.8%（全国平均79.8%）である。〔問題番号1四〕
- ◇ 「【資料1】と【資料2】に書かれている内容として適切なものを選択する」設問（第3・4学年「読むこと」の内容）は、正答率92.0%（全国平均90.0%）である。〔問題番号2一〕
- ◇ 「寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く」設問（第5・6学年「話すこと・聞くこと」の内容）は、正答率77.6%（全国平均70.2%）である。〔問題番号3二〕
- ◆ 「【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く」設問（第5・6学年「書くこと」の内容）は、正答率27.1%（全国平均26.7%）である。〔問題番号1二〕
- ◆ 「資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができそうなことをまとめて書く」設問（第5・6学年「読むこと」の内容）は、正答率55.6%（全国平均56.2%）である。〔問題番号2四〕

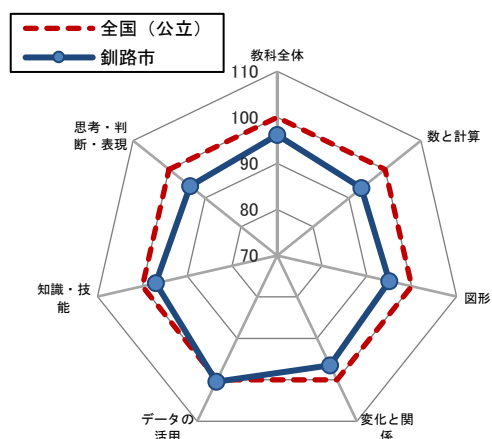
#### 【今後の指導について】

- 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する指導の充実
  - ・ 伝えたいことを明確にし、分かりやすく伝えるためには、どのような図表やグラフなどを用いるとよいのかを児童が考えられるようにすることが大切です。そのためには、それぞれの図表やグラフの特徴、優れている点などについて他教科等において活用したり、推敲の際には、図表やグラフなどの用い方は適切か、図表やグラフを用いることで書く必要がなくなった文章はないか、あるいは、文章で説明を加えた方が分かりやすい部分はないか、といった観点で見直すとともに、児童の学習の状況に応じて図表やグラフ等を用いたモデルとなる文章を提示するようにしましょう。
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる指導の充実
  - ・ 文章を読んで自分の考えをまとめるためには、文章の構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりしたことに基づき、既有的知識などと結び付けて自分の考えを形成していくことが大切です。そのためには、文章を読んで理解したことと、自分の考えとの関係を意識しながらまとめていくよう促すとともに、文章をよく理解したり自分の考えを広げたりできるように、複数の文章を読む機会を授業の中で意図的に設定しましょう。

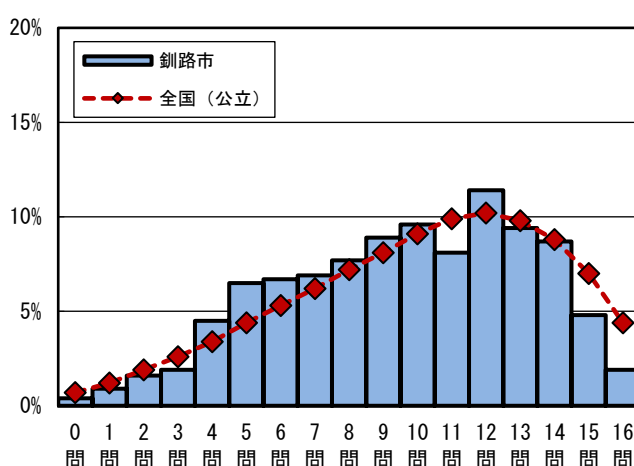
## 2 小学校算数

	児童数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（％）	中央値	標準偏差
釧路市	986	9.6 / 16	60 [60.1]	10.0	3.6
全国（公立）	964,350	10.0 / 16	62.5	11.0	3.8

【標準スコアによるカテゴリー間の比較】



【正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）】



### 【設問別正答率の概要】(◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題がみられる設問)

- ◇ 「5脚の椅子を重ねたときの高さを求める」設問（第4学年「C変化と関係」の内容）は、正答率92.1%（全国平均93.5%）である。[問題番号1（1）]
- ◇ 「椅子の数が2倍になっても、高さは2倍になっていないことについて、表の数を使って書く」設問（第5学年「C変化と関係」の内容）は、正答率88.4%（全国平均88.5%）である。[問題番号1（2）]
- ◇ 「テープを折ったり切ったりしてできた四角形の名前を書く」設問（第2学年「B図形」第4学年「B図形」の内容）は、正答率88.3%（全国平均87.2%）である。[問題番号2（2）]
- ◆ 「切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを書く」設問（第3学年「B図形」第5学年「B図形」の内容）は、正答率19.6%（全国平均24.9%）である。[問題番号2（3）]
- ◆ 「テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く」第5学年「B図形」の内容）は、正答率12.6%（全国平均20.8%）である。[問題番号2（4）]
- ◆ 「示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ」設問（第5学年「C変化と関係」）は、正答率40.9%（全国平均46.0%）である。[問題番号4（1）]

### 【今後の指導について】

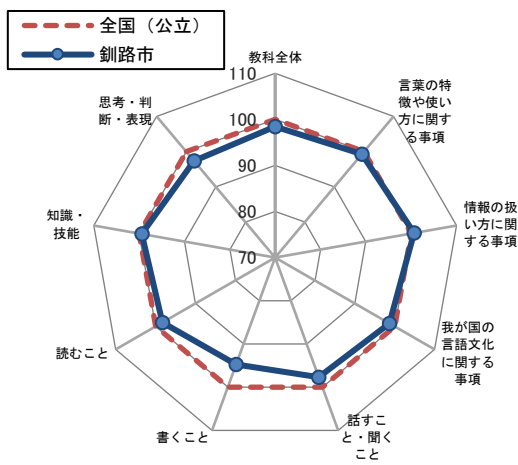
- 目的の図形をつくるための操作の見通しを立てることができるようにする指導の充実
  - ・ 目的の図形をつくるために、どのような操作をすればよいか、図形の意味や性質を基に、見通しを立てることができるようにする学習活動を充実させましょう。
- 底辺と高さの関係に着目し、図形の面積の求め方から面積の大小を判断できるようにする指導の充実
  - ・ 三角形の面積を求めるために必要な底辺と高さの関係に着目し、三角形の底辺や高さとの面積の関係を基に面積の大小を判断できるようにする学習活動を充実させましょう。
- 百分率で表された割合について理解できるようにする指導の充実
  - ・ 日常生活の場面において百分率で表された割合について、具体的な数量の関係に基づいて理解できるようにする学習活動を充実させましょう。
- 筆算を具体物や図に表すことで、式と関連付けて考察できるようにする指導の充実
  - ・ 筆算を具体物や図と関連付けて考察したり、具体物の操作や図で考えた結果を式に表したりすることで、筆算を式と関連付けて考察できるようにする学習活動を充実させましょう。



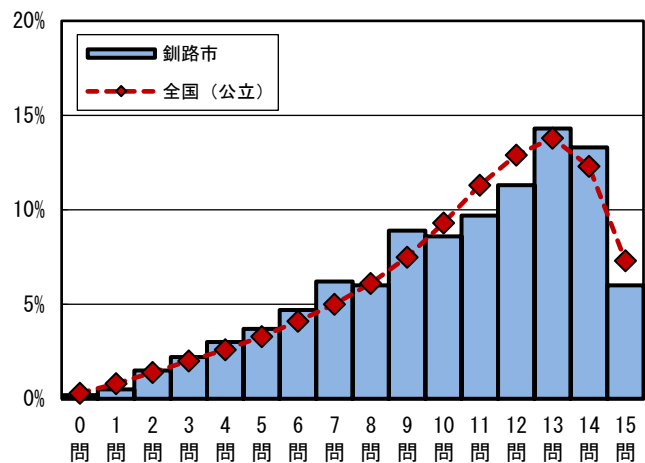
### 3 中学校国語

	生徒数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（％）	中央値	標準偏差
<b>釧路市</b>	956	10.3 / 15	69 [68.7]	11.0	3.4
全国（公立）	892,738	10.5 / 15	69.8	11.0	3.4

【標準スコアによるカテゴリー間の比較】



【正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）】



【設問別正答率の概要】（◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題がみられる設問）

- ◇ 「『落胆する』の意味として適切なものを選択する」設問（第1学年「言葉の特徴や使い方に関する事項」の内容）は、正答率92.8%（全国平均91.1%）である。〔問題番号2一〕
- ◇ 「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（いひける）」設問（第1学年「我が国の言語文化に関する事項」の内容）は、正答率84.2%（全国平均82.5%）である。〔問題番号4一〕
- ◇ 「二つの文章に共通する表現の効果を説明したものとして適切なものを選択する」設問（第2学年「読むこと」の内容）は、正答率65.1%（全国平均63.0%）である。〔問題番号2二〕
- ◆ 「（『判じ絵』の解説の面白さ）と見出しをつけた部分に具体例として示す『判じ絵』を選択し、その解説の仕方を書く」設問（第1学年「書くこと」の内容）は、正答率66.4%（全国平均72.1%）である。〔問題番号3四〕
- ◆ 「漢字を書く（おし量って）」設問（第2学年「言葉の特徴や使い方に関する事項」の内容）は、正答率41.2%（全国平均43.9%）である。〔問題番号3二〕
- ◆ 「現代語で書かれた『竹取物語』のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く」設問は、正答率48.2%（全国平均50.0%）である。また、無解答率は27.7%である。〔問題番号4三〕

【今後の指導について】

○ 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く指導の充実

- ・ 自分の考えが伝わる文章を書くためには、伝えたい自分の考えと、考えを支える根拠を文章の中に記述することが大切です。そのためには、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確認した上で、考えを支える根拠として示す事例等を検討し、考えと事例等との関係を明確にして記述できるよう指導しましょう。

○ 漢字を正しく用いる態度と習慣を養う指導の充実

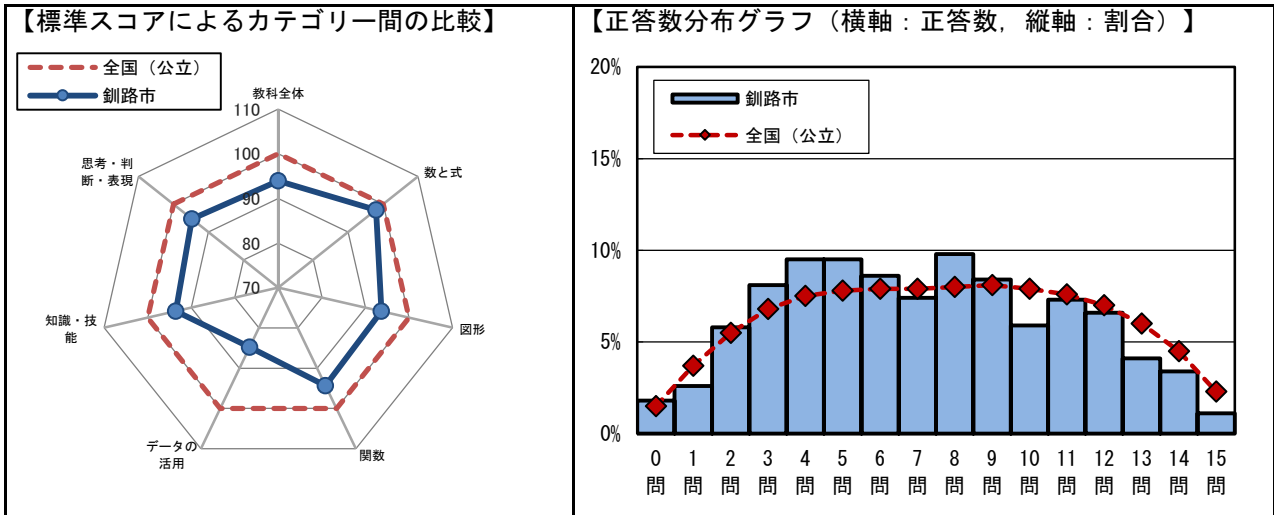
- ・ 漢字の指導においては、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得し、文脈に即して漢字を読んだり書いたりすることができるように指導することが大切です。そのためには、文章の中ばかりでなく、「A話すこと・聞くこと」の学習の中や、他教科の学習や日常の会話の中でも漢字の書きについて意識できるよう指導しましょう。

○ 「読むこと」を通して古典の楽しみ方を理解する指導の充実

- ・ 生徒が古典の世界に親しむためには、中学生が楽しめるような現代語訳などを取り上げ、文章の構成や展開、表現の効果などに着目して工夫されているところを考えることが大切です。また、古典の原文と比較したり関係付けたりすることで、古典の原文やその作品の世界に生徒の興味・関心が向かうよう指導しましょう。

#### 4 中学校数学

	生徒数 (人)	平均正答数 (問)	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
釧路市	958	7.2 / 15	48 [47.9]	7.0	3.7
全国 (公立)	893,114	7.6 / 15	51.0	8.0	3.9

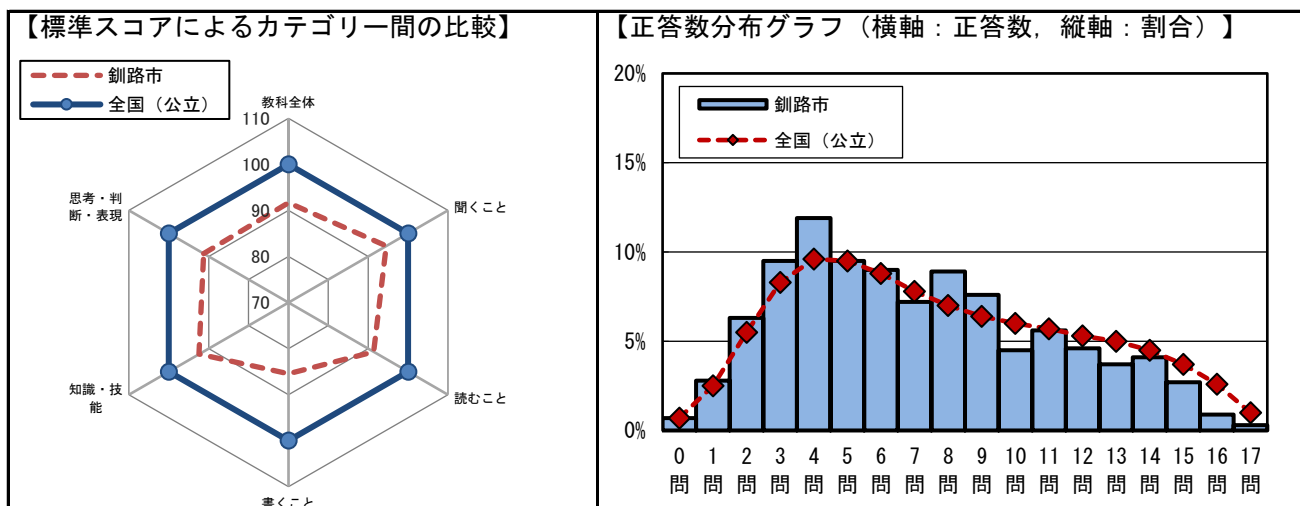


- 【設問別正答率の概要】(◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題がみられる設問)
- ◇ 「 $12(x/4 + y/6)$  を計算する」設問 (第2学年「A数と式」の内容) は、正答率84.6% (全国平均80.5%) である。[問題番号2]
  - ◇ 「はじめの数が11のとき、はじめの数にかける数が2、たす数が3のときの計算結果を求める」設問 (第1学年「A数と式」の内容) は、正答率88.8% (全国平均88.9%) である。[問題番号6(1)]
  - ◆ 「空間における平面が1つに決まる場合について、正しい記述を選ぶ」設問 (第1学年「B図形」の内容) は、正答率25.5% (全国平均30.4%) である。[問題番号3]
  - ◆ 「女子50m自由形の記録の、最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数を求める」設問 (第1学年「Dデータの活用」の内容) は、正答率31.2% (全国平均46.1%) である。[問題番号5]
  - ◆ 「はじめの数にかける数がいくつ、たす数がいくつであれば、計算結果はいつでも4の倍数になるかを説明する」設問 (第2学年「A数と式」の内容) は、正答率36.4% (全国平均40.9%) である。また、無解答率は、28.8% (全国平均24.7%) である。[問題番号6(3)]
  - ◆ 「「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する」設問 (第2学年「Dデータの活用」の内容) は、正答率31.8% (全国平均33.6%) である。また、無解答率は、27.5% (全国平均22.8%) である。[問題番号7(2)]

- 【今後の指導について】
- 身の回りにある事象を図形として捉え考察する活動の充実
    - ・ 身の回りにある事象から、空間において平面が一つに決まる条件を見だし、実感を伴って理解することができるように指導しましょう。
  - 目的に応じて度数分布表やヒストグラム、代表値などを用いてデータの分布の傾向を読み取る活動の充実
    - ・ 不確定な事象についてデータに基づいて判断する活動を通して、目的に応じて累積度数を用いることができるように指導しましょう。
  - 結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って捉え、見いだした事柄を数学的に表現する活動の充実
    - ・ 予想した事柄が成り立つかどうかを、具体的な数や文字式を用いて調べる活動を通して、結論が成り立つための前提を捉え、見いだした事柄を数学的に表現できるように指導しましょう。
  - 目的に応じてデータを収集して分析し、その傾向を読み取って批判的に考察し判断することを通して、統計的に問題解決する活動の充実
    - ・ 日常生活や社会の事象を題材とした問題などを取り上げ、統計的に問題解決することができるように指導しましょう。その際、問題を解決するために計画を立て、必要なデータを収集して分析し、データの分布の傾向を捉え、その結果を基に批判的に考察し判断するという一連の活動を充実させましょう。

## 5 中学校英語

	生徒数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（%）	中央値	標準偏差
<b>釧路市</b>	<b>953</b>	<b>7.1 / 17</b>	<b>42 [41.8]</b>	<b>7.0</b>	<b>3.9</b>
全国（公立）	893,528	7.7 / 17	45.6	7.0	4.2



**【設問別正答率の概要】**（◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題がみられる設問）

- ◇ 「ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する」設問（「聞くこと」の内容）は、正答率77.1%（全国平均79.0%）である。[問題番号1（1）]
- ◇ 「事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する」設問（「読むこと」の内容）は、正答率60.9%（全国平均64.5%）である。[問題番号5（2）]
- ◆ 「図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する」設問（「読むこと」の内容）は、正答率52.8%（全国平均59.8%）である。[問題番号7（1）]
- ◆ 「ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く」設問（「書くこと」ウの内容）は、正答率13.4%（全国平均19.5%）であり、無解答率は、38.8%（全国平均29.3%）である。[問題番号8（2）]
- ◆ 「与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる」設問（「書くこと」アの内容）は、正答率13.9%（全国平均20.9%）であり、無解答率は、15.0%（全国平均10.9%）である。[問題番号9（1）②]
- ◆ 「学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く」設問（「書くこと」イの内容）は、正答率4.3%（全国平均7.4%）であり、無解答率は、29.2%（全国平均21.4%）である。[問題番号10]

**【今後の指導について】**

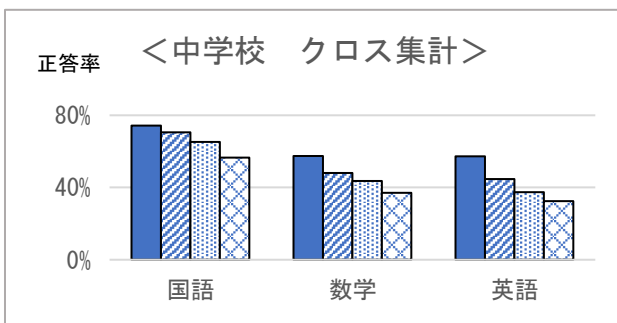
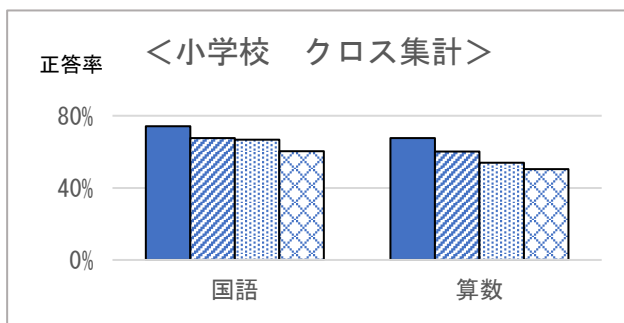
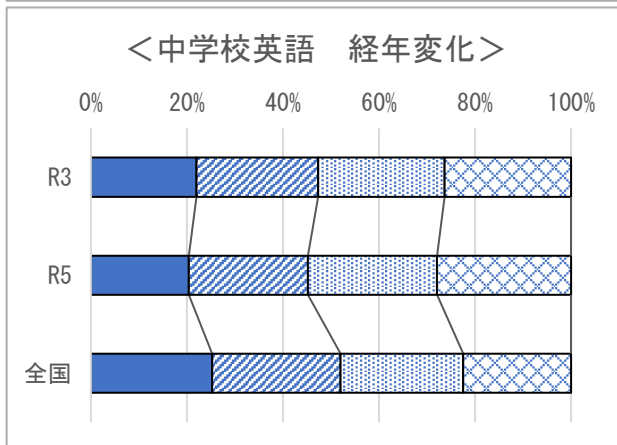
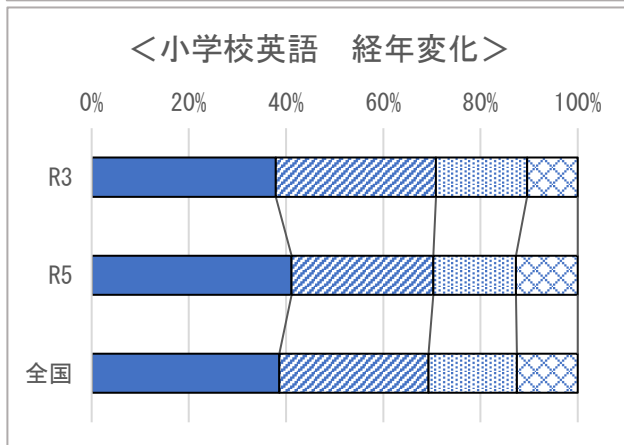
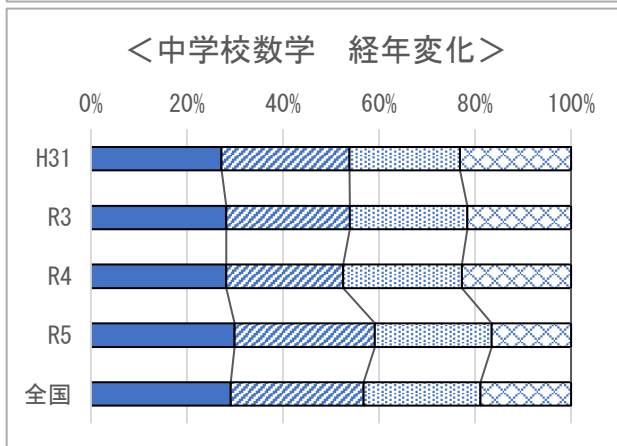
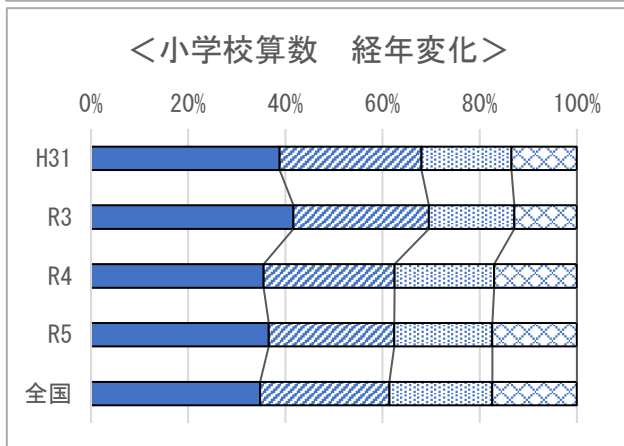
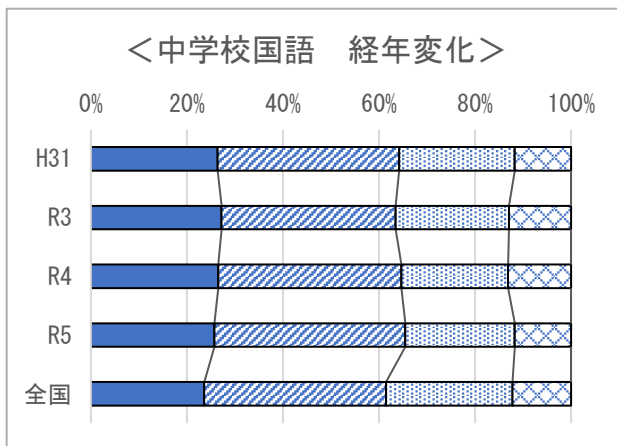
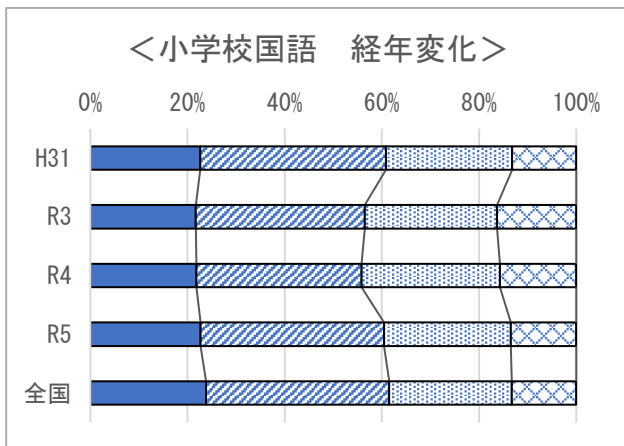
- **説明文を読んで、概要を捉える指導の充実**
  - ・ 説明文を読んで、概要を捉えるためには、段落内の文と文との関係を読み取りながら、各段落の主な内容を捉えることが大切です。そのためには、語と語の関連や代名詞、接続表現などを手掛かりにしながら、段落内の情報の関係を正確に把握できるよう指導しましょう。
- **読んだことを基に自分の考えとその理由を書く指導の充実**
  - ・ 読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解したことを基に、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて表現することが大切です。読む目的に応じて要点を捉えた上で、内容に対する感想や賛否、自分の考えなどを話したり書いたりして表現するなど領域を統合した言語活動を充実させましょう。
- **場面や状況から文の形式や時制を適切に判断し、正確に書く指導の充実**
  - ・ 場面や状況に応じて正確に英文を書くためには、文脈から適切な文の形式や時制を判断することが大切です。その上で、意味内容の伝達のみにとどまるのではなく、生徒自身が英語表現の誤りに気付き、修正を加えながら正確さを高めていくことができるよう指導しましょう。また、疑問文を実際のコミュニケーションにおいて正しく活用できるまでには時間を要するため、疑問文を用いて話したり書いたりすることを、3年間を通じて継続的に指導しましょう。
- **テーマについて事実や考えを整理し、文章構成を判断して、文と文のつながりなどに注意しながらまとまりのある文章を書く指導の充実**
  - ・ テーマについてまとまりのある文章を書くためには、テーマについて事実や考えを整理し、どのように書けばよりよく読み手に伝わるのかを考えながら書くことが大切です。また、まとまりのある文章を書くことができるようになるためには、読むことの活動を書くことの活動につなげていく指導を充実させましょう。

### Ⅲ 児童生徒質問紙調査結果の概要

#### (1) 学習に対する興味・関心等に関する項目

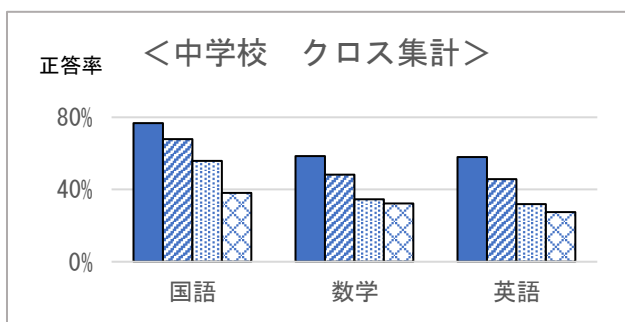
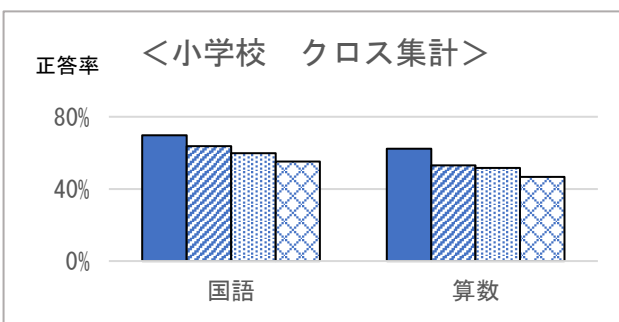
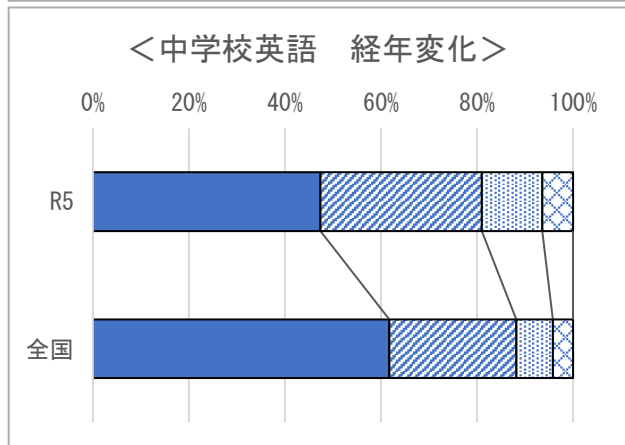
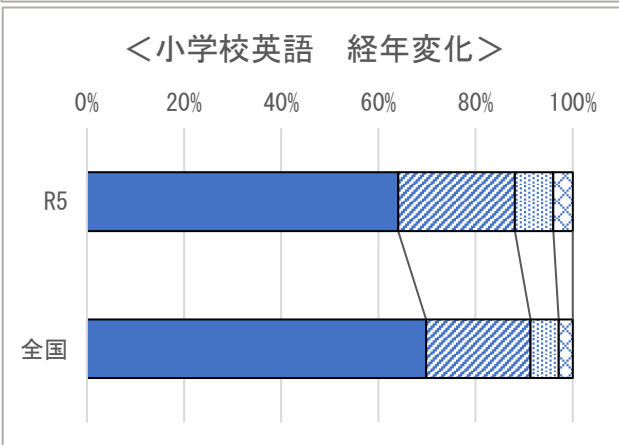
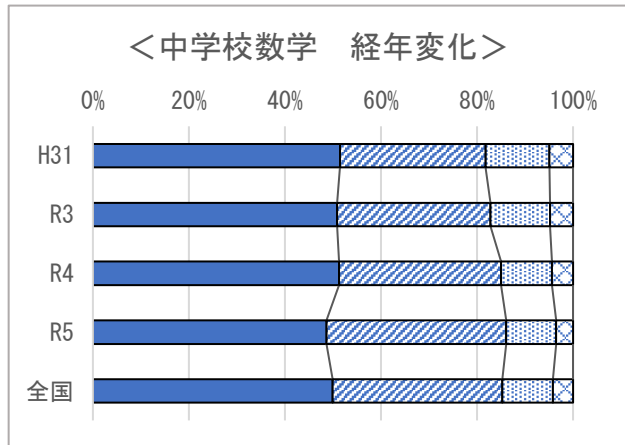
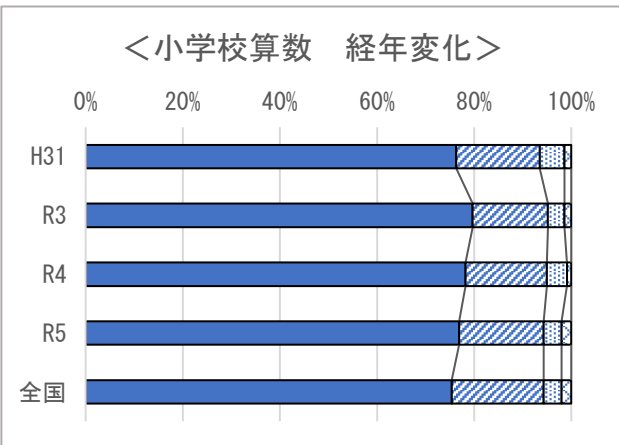
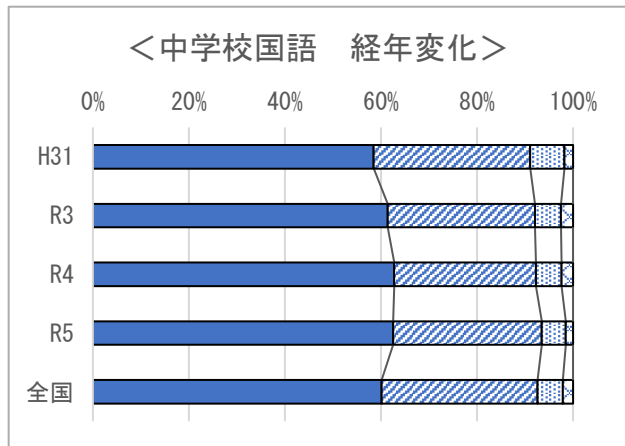
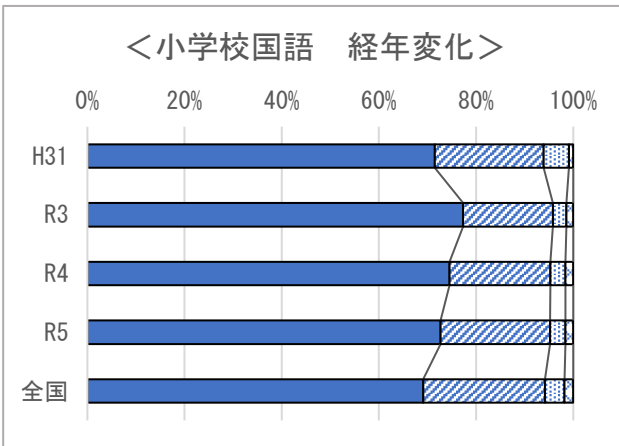
##### ① 「国語、算数・数学、英語の勉強は好き」

■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



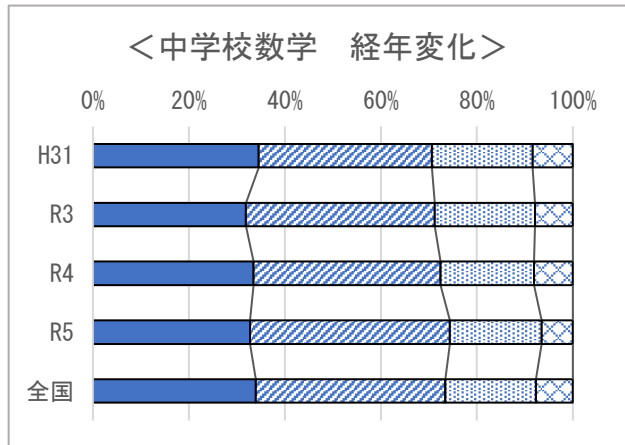
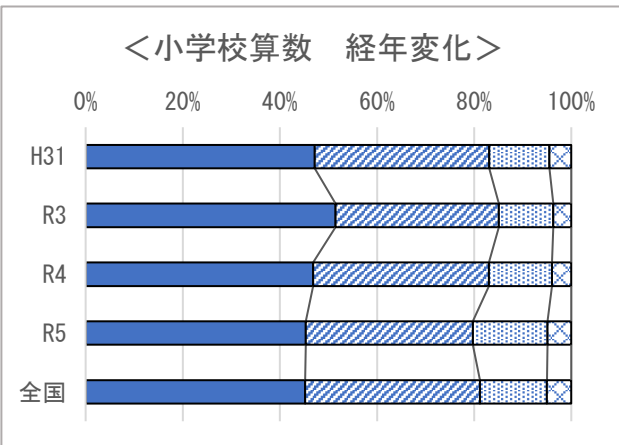
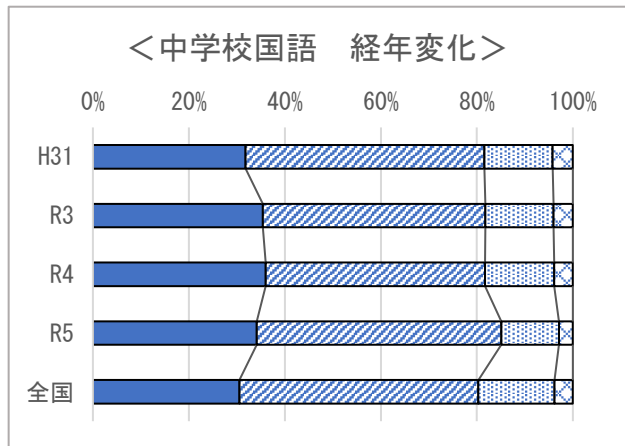
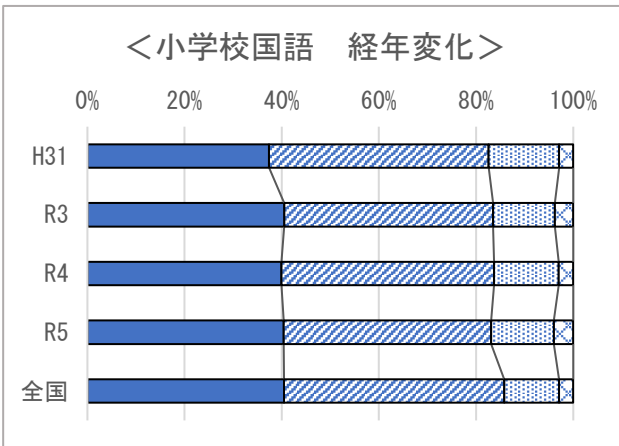
## ②「国語、算数・数学、英語の勉強は大切だと思う」

■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

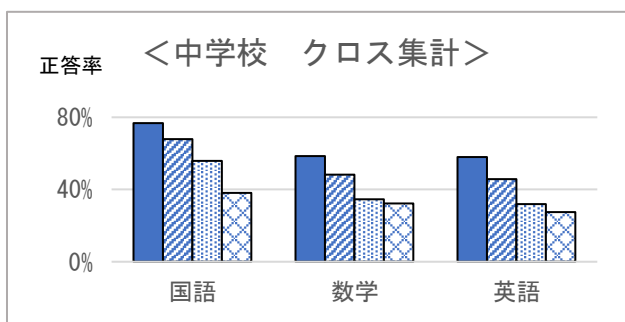
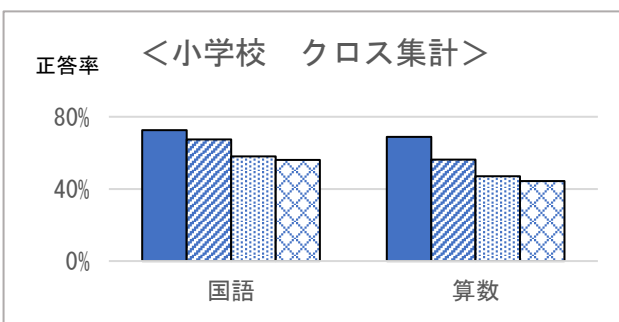
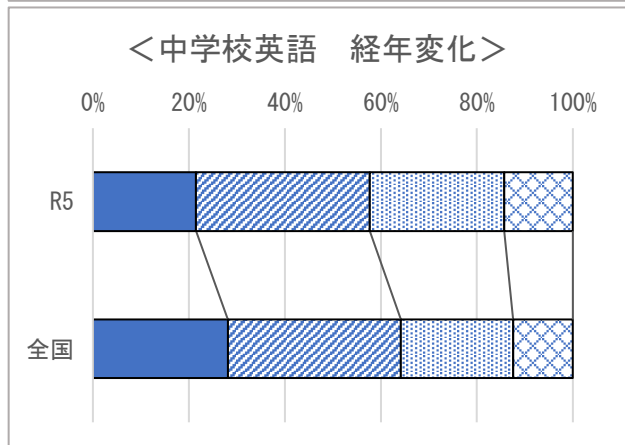


### ③「国語，算数・数学，英語の授業の内容はよく分かる」

■当てはまる □どちらかといえば，当てはまる □どちらかといえば，当てはまらない □当てはまらない

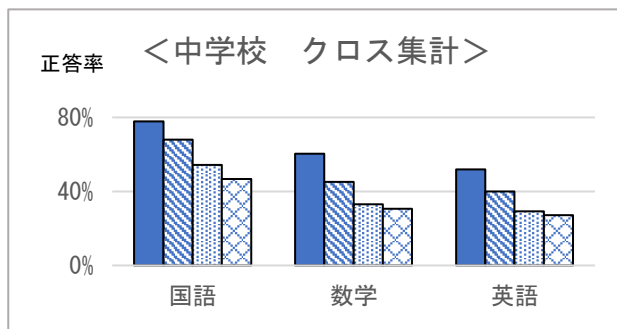
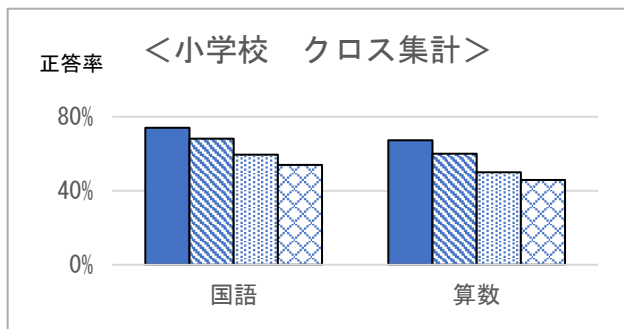
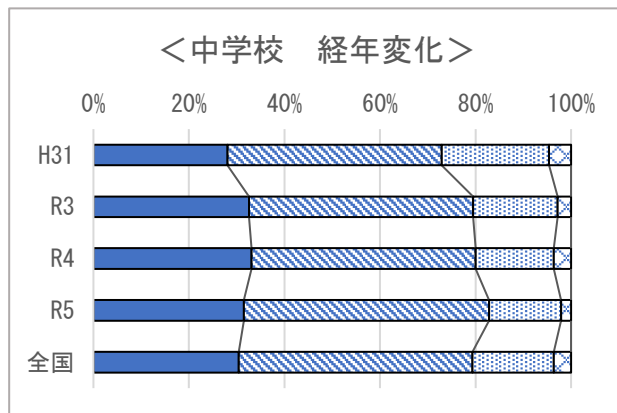
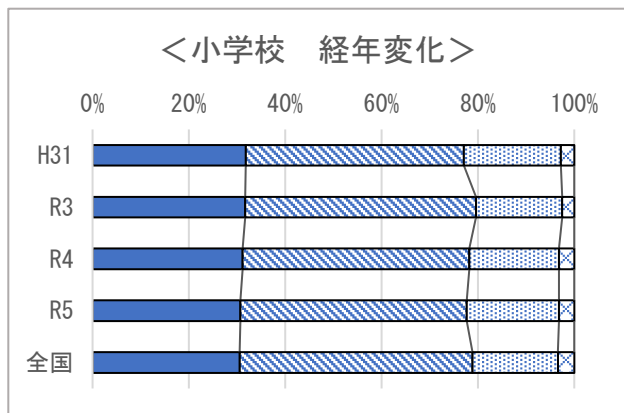


「英語の授業の内容はよく分かる」の質問は中学校のみ



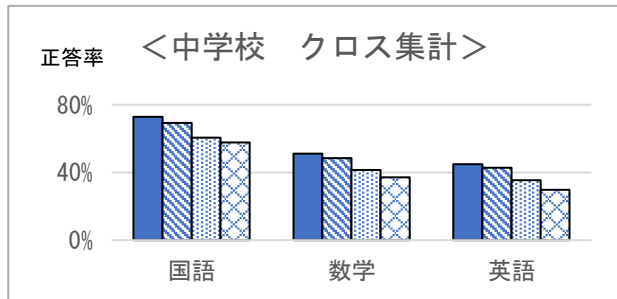
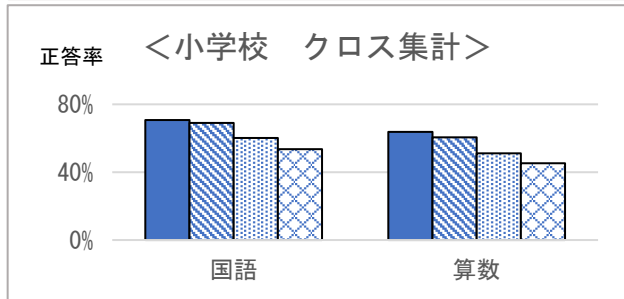
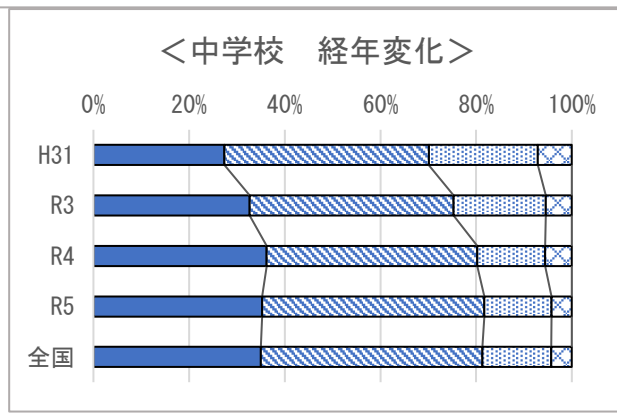
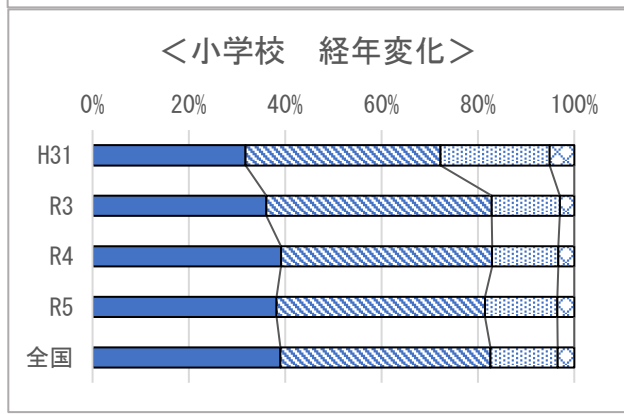
④「前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」

■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



⑤「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていた」

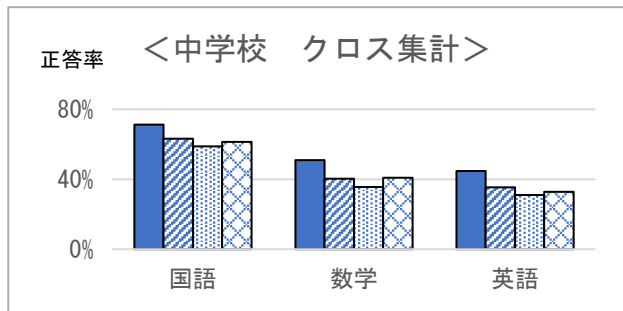
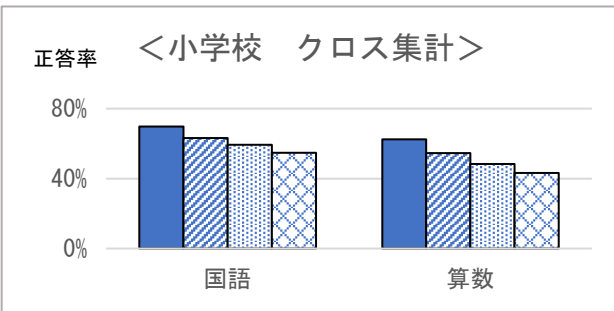
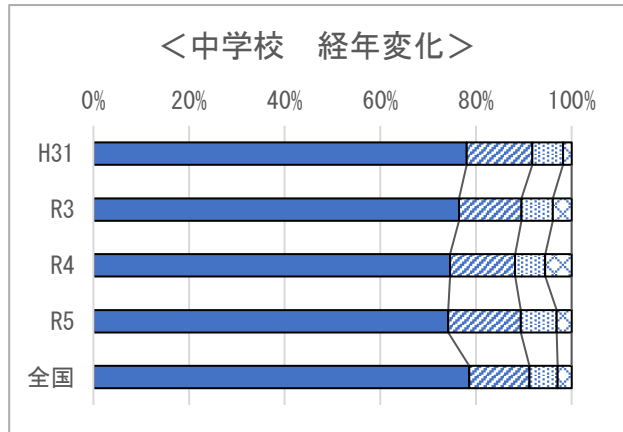
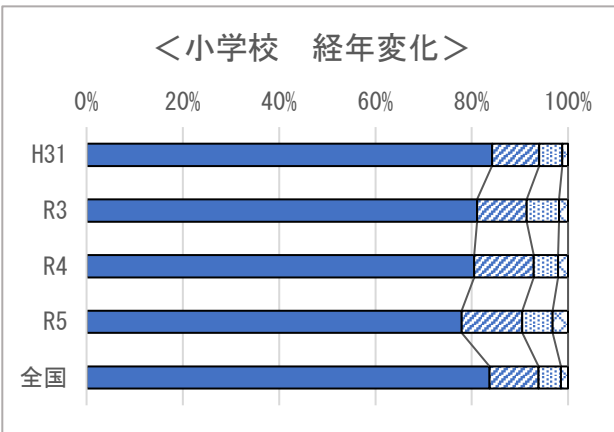
■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



## (2) 基本的な生活習慣等に関する項目

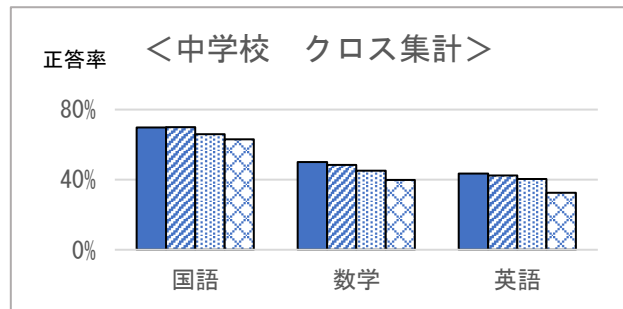
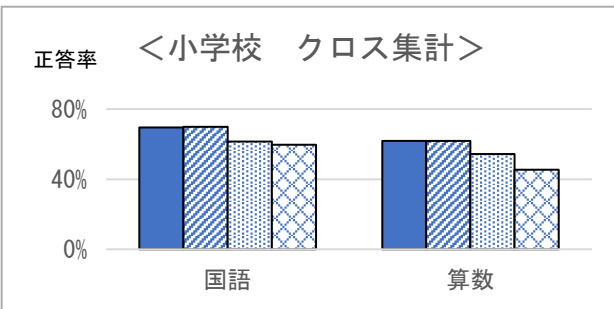
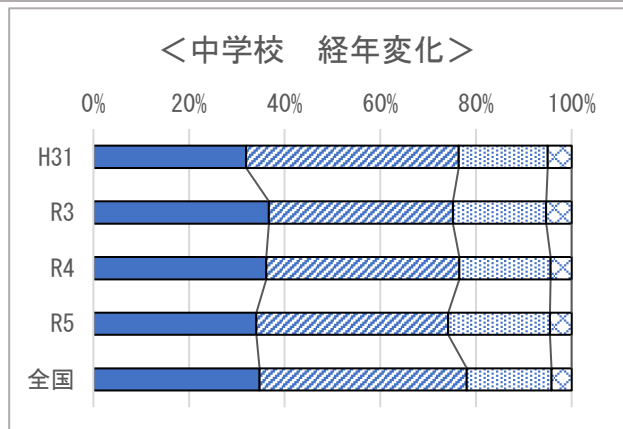
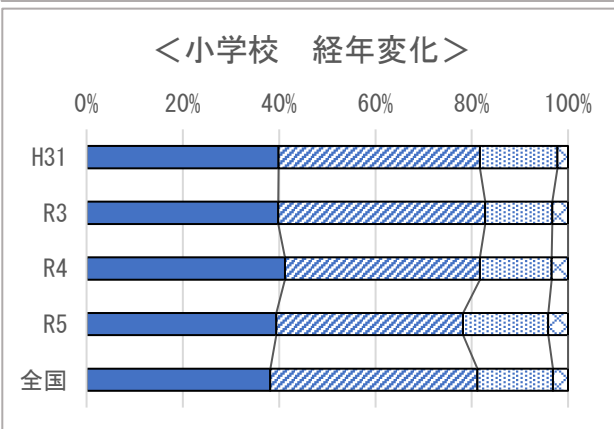
### ① 「朝食を毎日食べている」

■ している    ▨ どちらかといえば、している    ▩ あまりしていない    □ 全くしていない



### ② 「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」

■ している    ▨ どちらかといえば、している    ▩ あまりしていない    □ 全くしていない

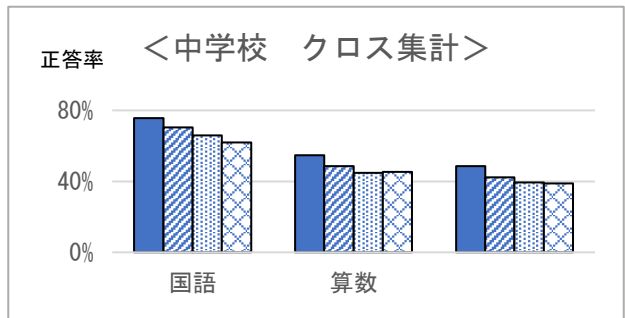
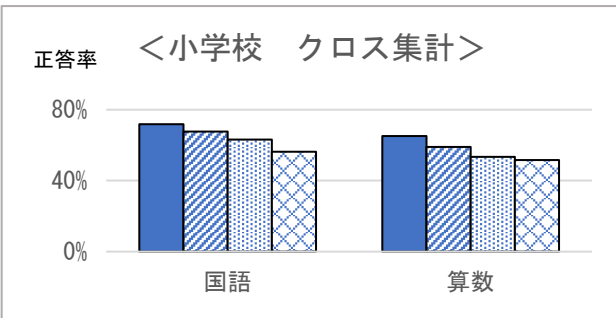
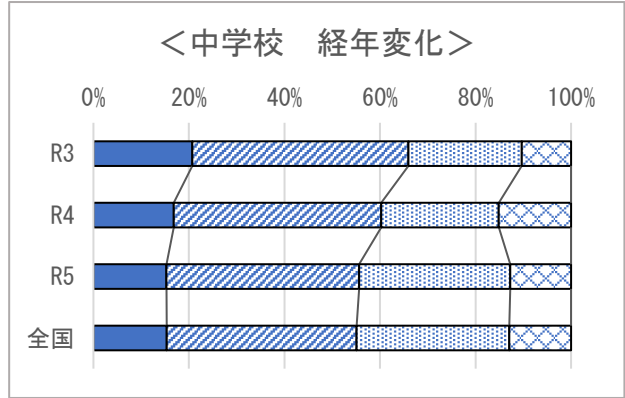
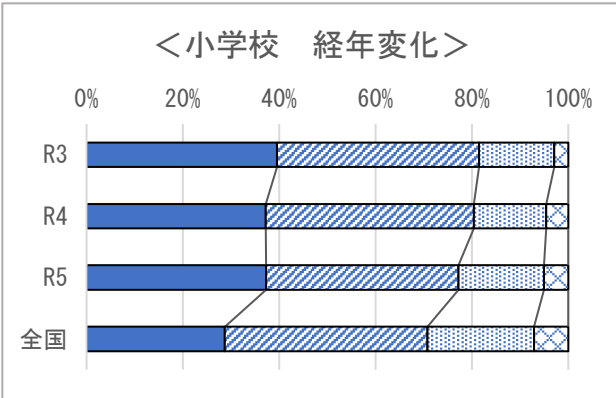




### (3) 学習習慣・学習環境等に関する項目

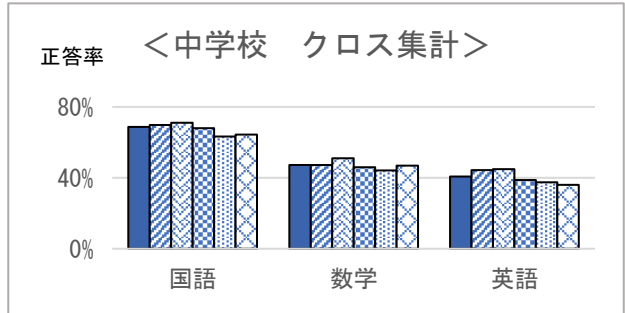
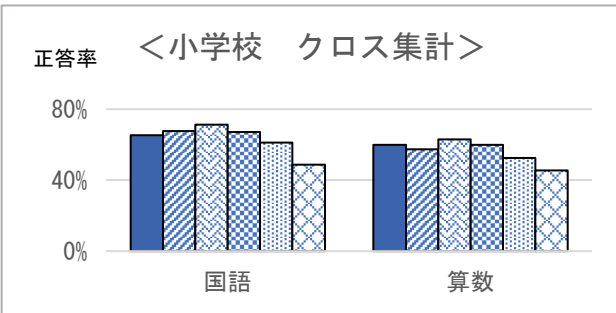
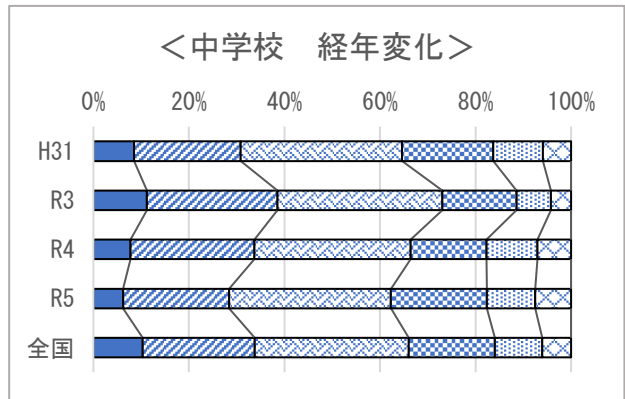
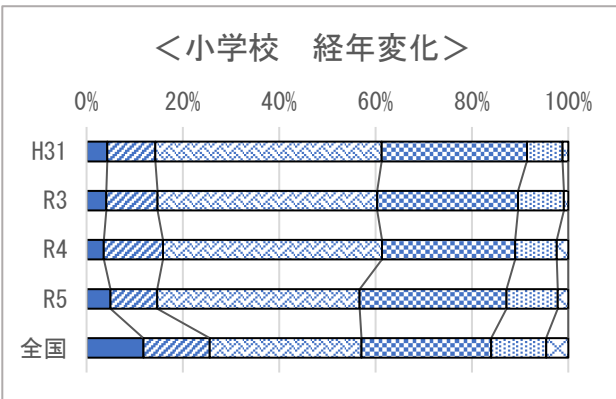
#### ①「家で自分で計画を立てて勉強している」

■よくしている    ▨ときどきしている    □あまりしていない    □全くしていない



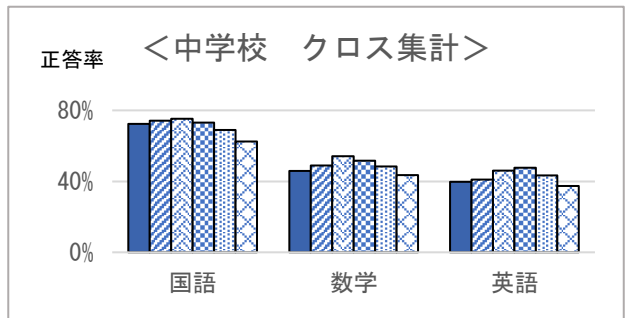
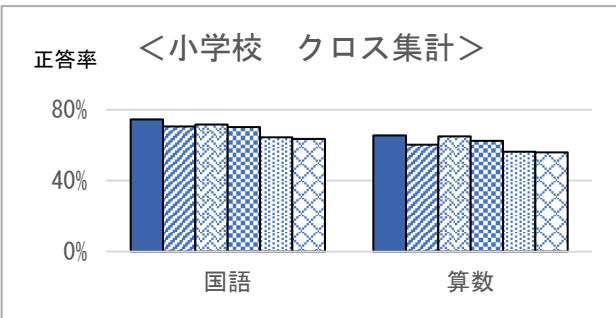
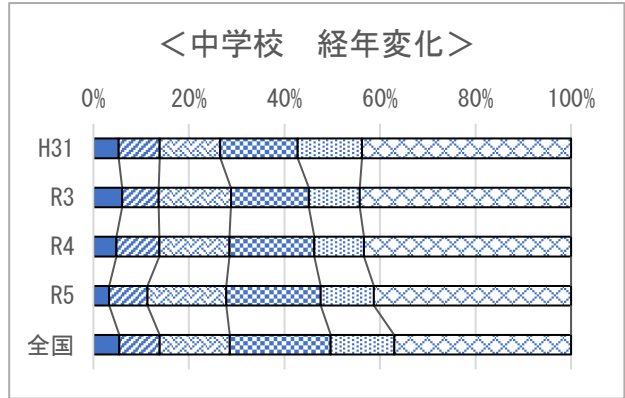
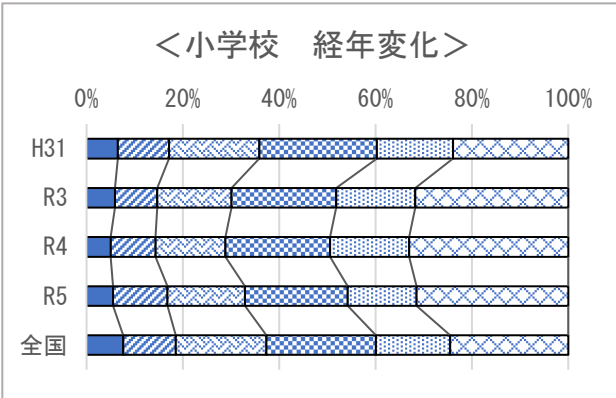
#### ②「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、勉強する1日当たりの時間（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」

■3時間以上    ▨2時間以上, 3時間より少ない    □1時間以上, 2時間より少ない  
 □30分以上, 1時間より少ない    □30分より少ない    □全くしない



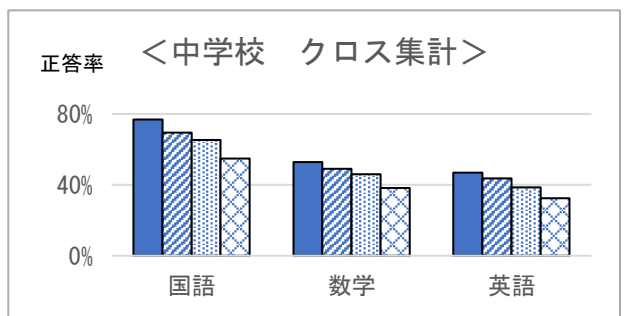
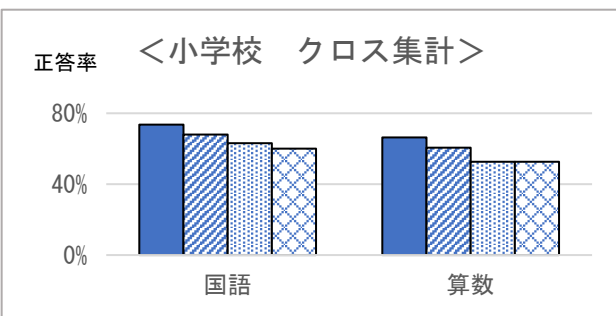
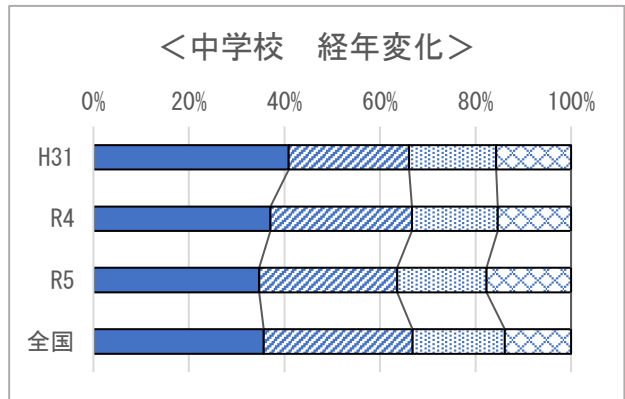
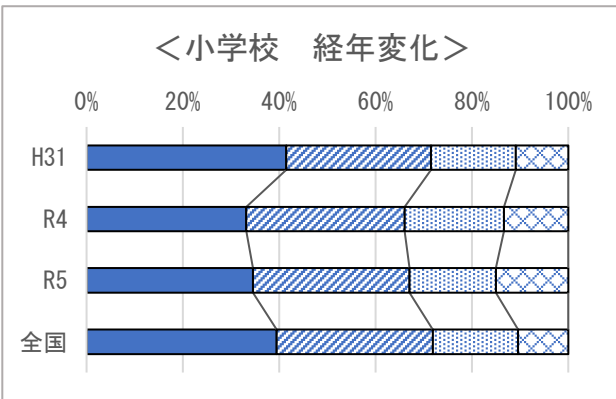
③「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、読書をする1日当たりの時間（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」

- 2時間以上
- ▨ 1時間以上、2時間より少ない
- ▩ 30分以上、1時間より少ない
- ▧ 10分以上、30分より少ない
- ▦ 10分より少ない
- 全くしない



④「読書が好き」

- 当てはまる
- ▨ どちらかといえば、当てはまる
- ▩ どちらかといえば、当てはまらない
- ▧ 当てはまらない

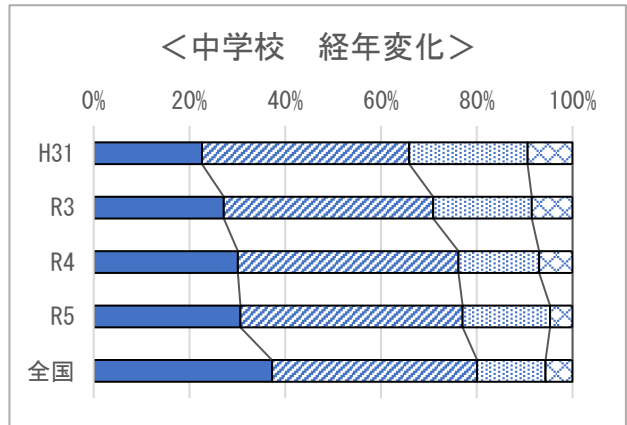
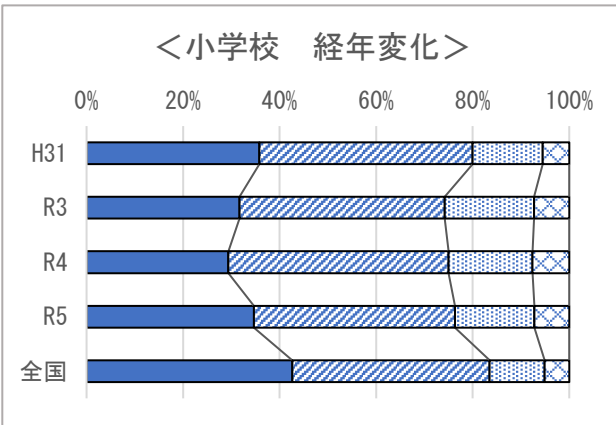


#### (4) 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等に関する項目

##### ① 「自分には、よいところがあると思う」

■ 当てはまる  
 □ どちらかといえば、当てはまらない

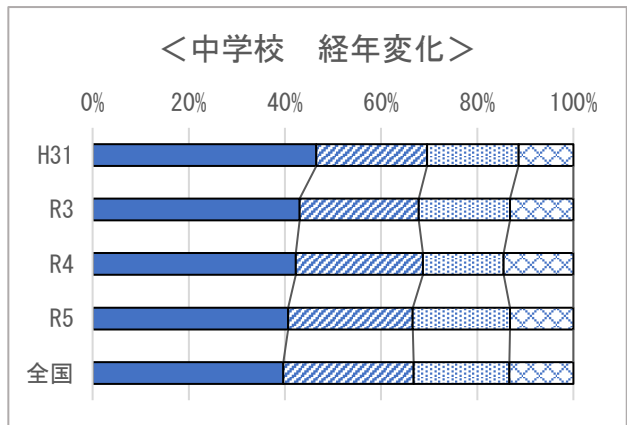
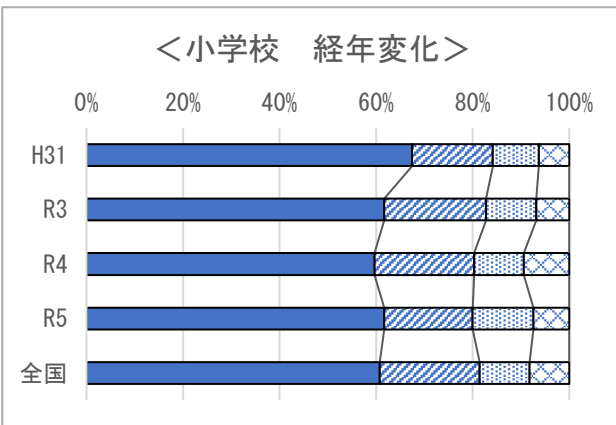
▨ どちらかといえば、当てはまる  
 ▩ 当てはまらない



##### ② 「将来の夢や目標を持っている」

■ 当てはまる  
 □ どちらかといえば、当てはまらない

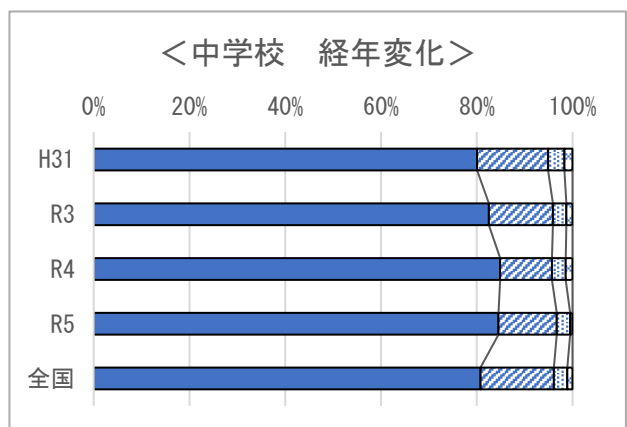
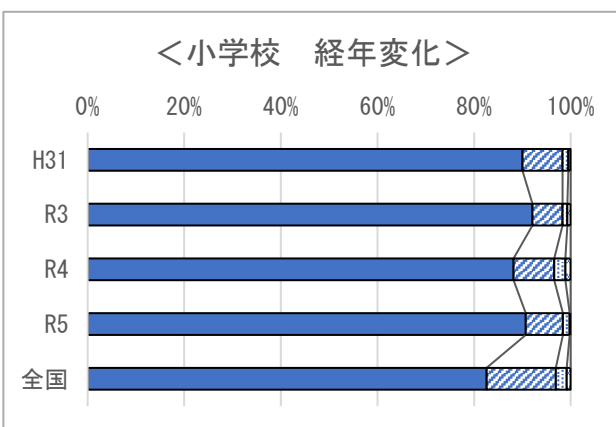
▨ どちらかといえば、当てはまる  
 ▩ 当てはまらない



##### ③ 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」

■ 当てはまる  
 □ どちらかといえば、当てはまらない

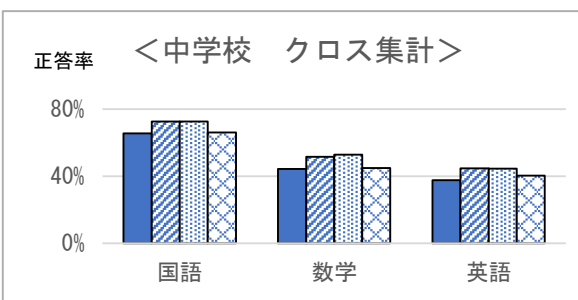
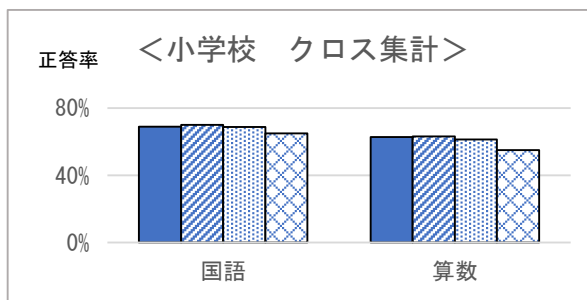
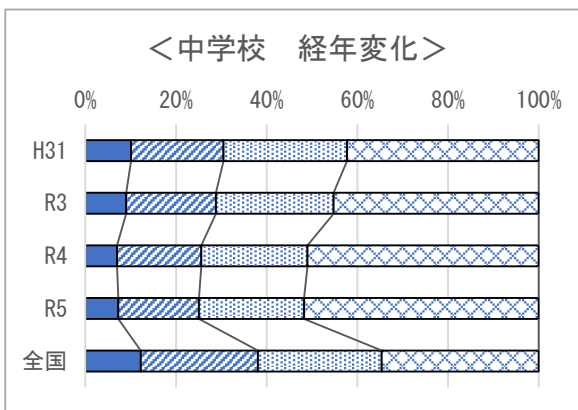
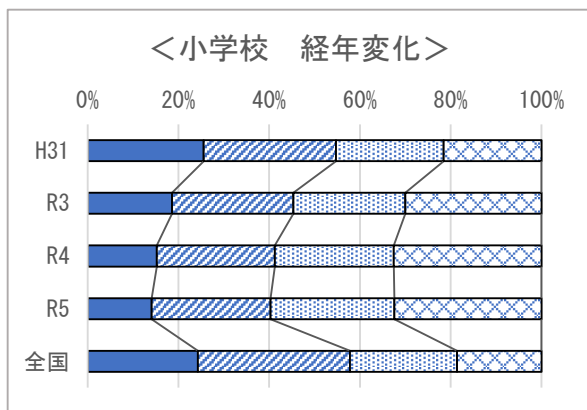
▨ どちらかといえば、当てはまる  
 ▩ 当てはまらない



## (5) 地域や社会に関わる活動の状況等に関する項目

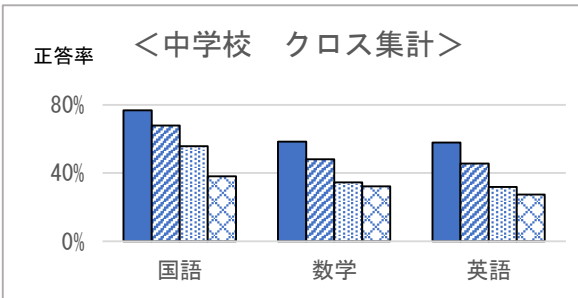
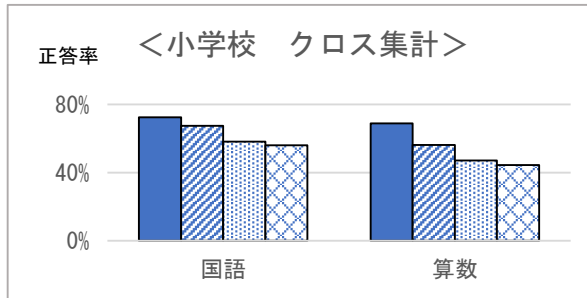
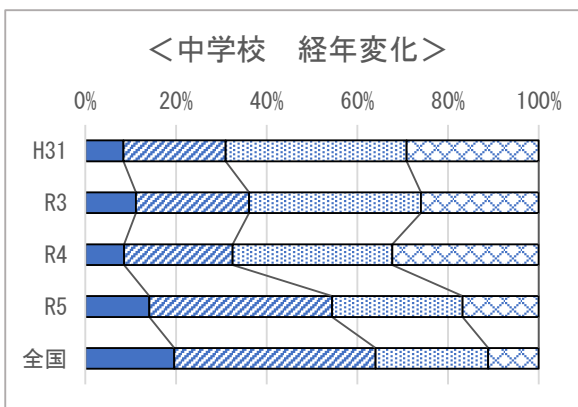
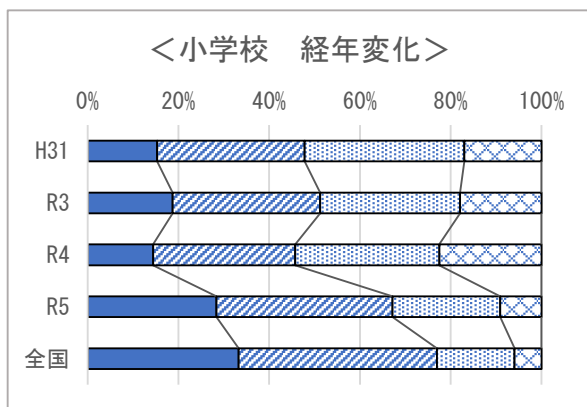
### ①「今住んでいる地域の行事に参加していますか」

■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



### ②「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」

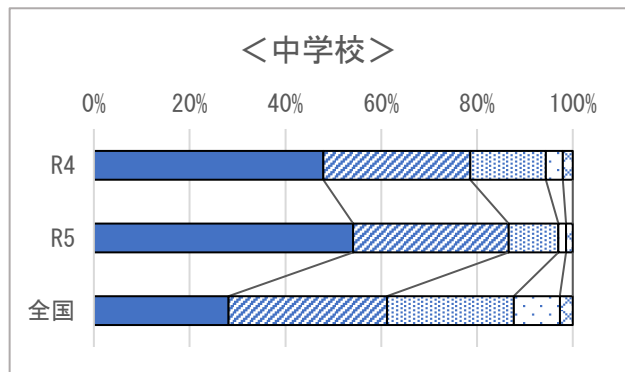
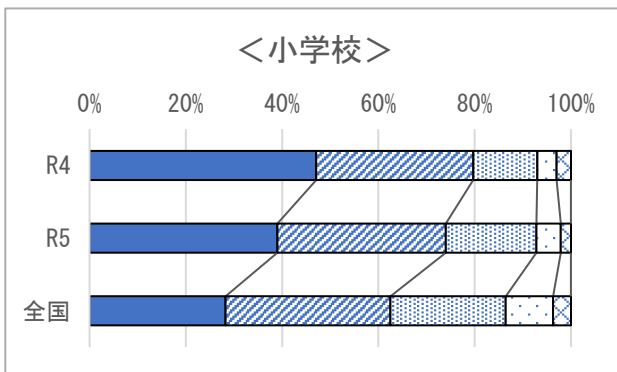
■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



## (6) ICTを活用した学習状況に関する項目

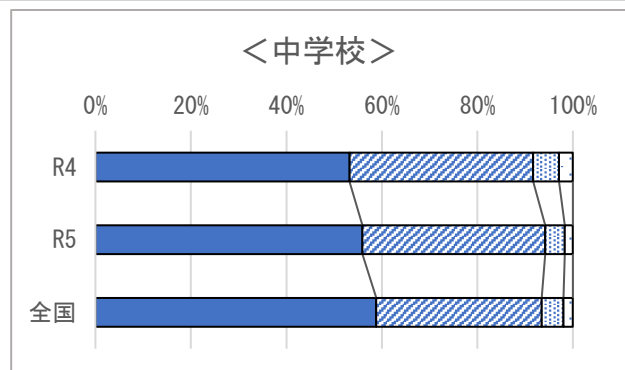
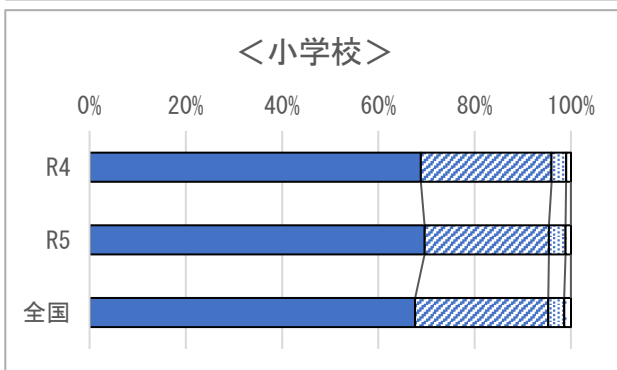
### ①「前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を使用した程度」

■ほぼ毎日    ▨週3回以上    ▩週1回以上    □月1回以上    ◻月1回未満



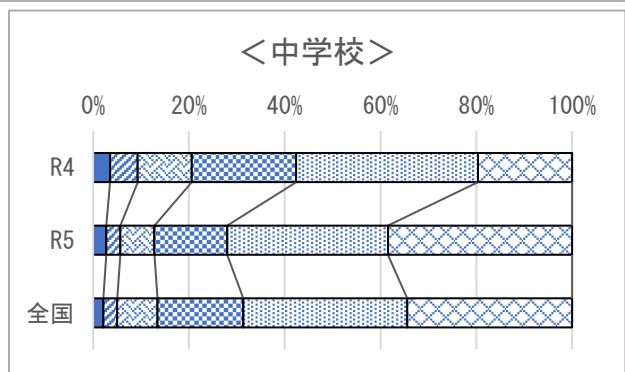
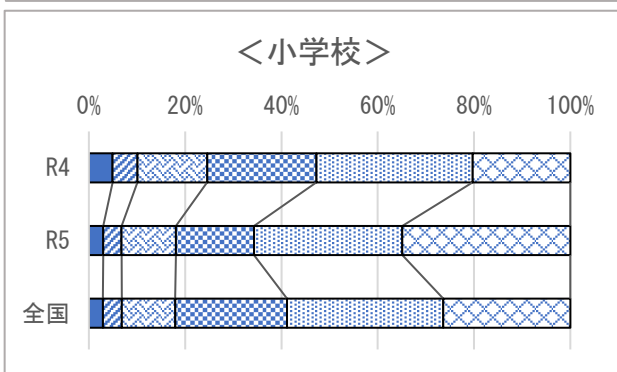
### ②「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」

■役に立つと思う    ▨どちらかといえば、役に立つと思う    ▩どちらかといえば、役に立たないと思う    □役に立たないと思う



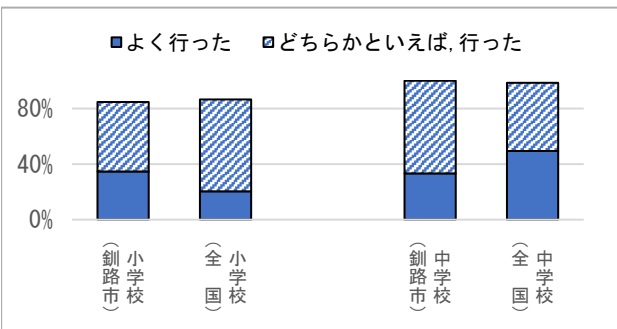
### ③「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使う程度（遊びなどの目的に使う時間は除く）」

■3時間以上    ▨2時間以上、3時間より少ない    ▩30分以上、1時間より少ない    ■全く使っていない

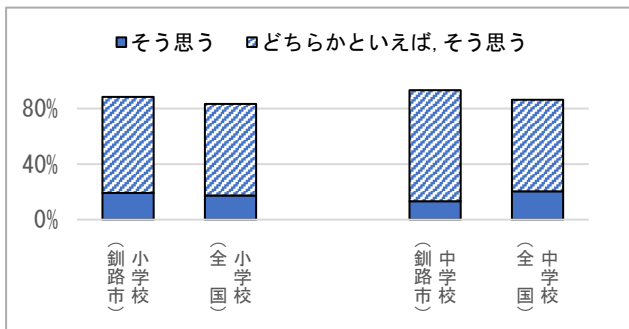


## IV 学校質問紙調査結果の概要

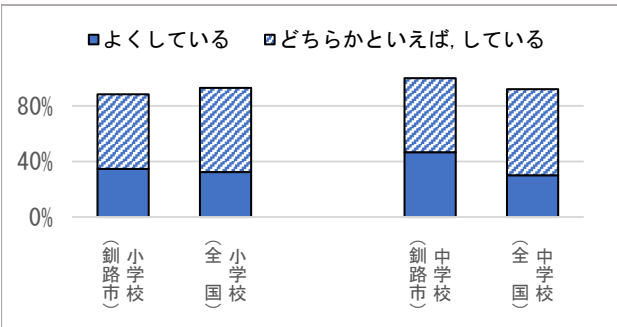
①「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行った」



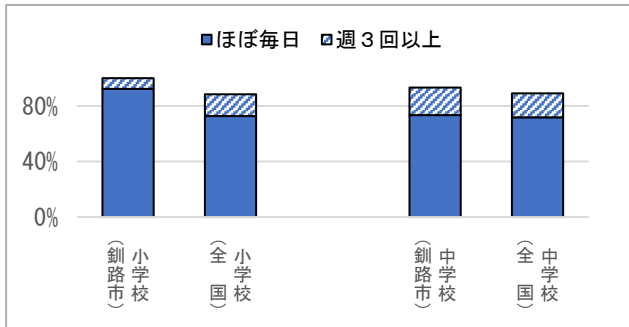
②「調査対象学年の児童生徒が、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」



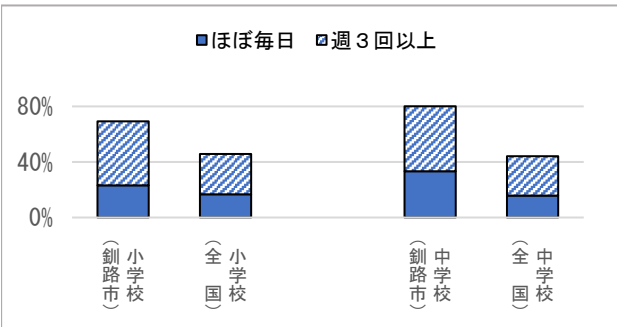
③「調査対象学年の児童生徒に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行った」



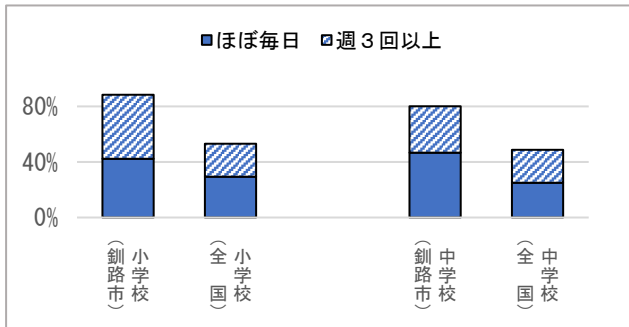
④「前年度に、教員が大型提示装置等（プロジェクター、電子黒板等）のICT機器を活用した授業を行った1クラス当たりの程度」



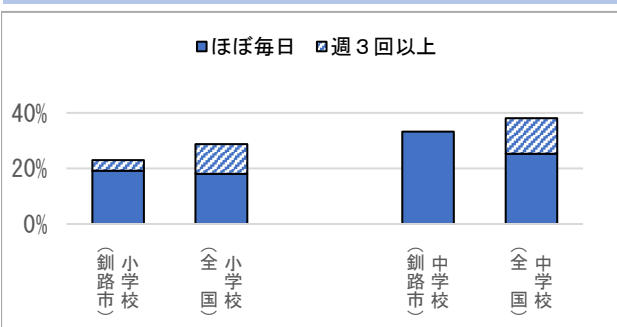
⑤「調査対象学年の児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面で、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用した程度」



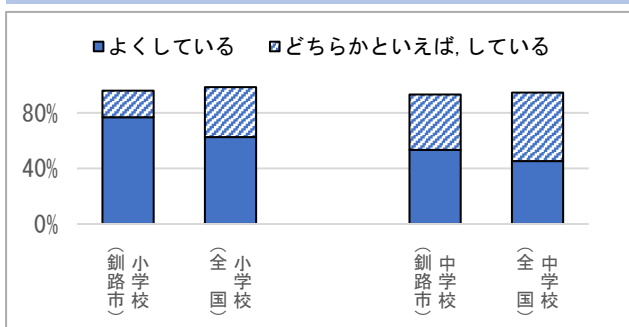
⑥「教職員と調査対象学年の児童生徒がやりとりする場面で、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用した程度」



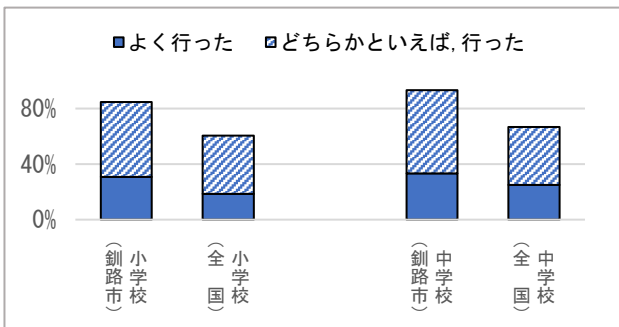
⑦「児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、不登校児童生徒に対する学習活動等の支援に活用した程度」



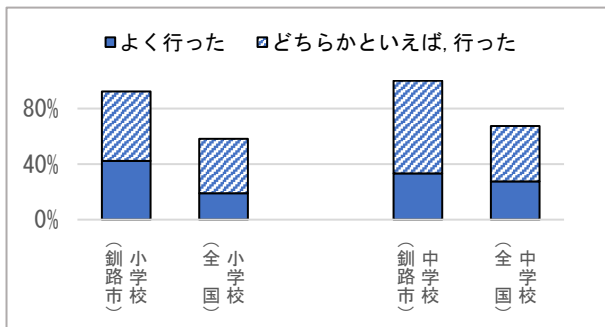
⑧「授業研究や事例研究等、実践的な研修の実施」



⑨「前年度までの、近隣等の小学校（中学校）との、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組」



⑩「前年度までの、近隣等の小学校（中学校）との合同研修（授業研究等）の実施」



## V 本市の主な傾向（児童生徒質問紙及び学校質問紙より）

- 「勉強は大切だと思うか」との質問について、小中学校ともに国語、算数・数学においては、肯定的に回答した児童生徒の割合が全国平均（以下、全国）を上回っている。一方、英語においては、小中学校ともに肯定的に回答した児童生徒の割合が全国を下回っている。また、肯定的に回答した児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向がみられる。
- 「朝食を毎日食べているか」との質問について、小中学校とも「毎日食べている」と回答した児童生徒の割合が全国を下回っている。また、経年変化をみると、小学校において「全く食べていない」と回答した児童の割合は増加傾向にある。
- 「家で自分で計画を立てて勉強しているか」との質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は全国を上回っているものの、経年変化を見ると、小中学校ともに肯定的に回答した割合は減少傾向にある。
- 「普段（月曜日から金曜日）の学校の授業時間以外に勉強する時間」について、「2時間以上」勉強している児童生徒の割合は、全国を下回っている。また、「30分より少ない」または、「全くしない」と回答した児童生徒の割合は10～20%程度である。
- 「普段（月曜日から金曜日）の学校の授業時間以外に読書する時間」について、「全くしない」と回答した児童生徒の割合が全国を上回っている。また、「読書が好きか」との質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合が全国を下回っている。
- 「自分には、よいところがあると思うか」との質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合が全国を下回っているが、経年変化を見ると、小中学校ともに肯定的に回答する割合は増加傾向にある。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか」との質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は全国を上回っている。経年変化においても、小中学校ともに肯定的に回答する割合は増加傾向にある。
- 学校質問紙における「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行った」との質問について、小学校において「よく行った」と回答した割合が全国を上回っている。一方、中学校においては全国を下回っている。
- 「ICTを活用した学習状況」について、児童生徒質問紙及び学校質問紙の回答から、小中学校ともに全国よりも高い頻度で活用している傾向がみられる。
- 「小中連携」に関する質問について、学校質問紙の回答では、授業研究、教科指導、教育課程に関する取組について、全国よりも小中学校が連携を図っている傾向がみられる。

### 【教育委員会の役割】

教育委員会は、教育施策の実施主体として、様々な施策を推進するとともに、人的、物的な資源や情報を学校に提供することで学校の力が最大限に発揮できる教育環境をつくるのが大切です。

学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たすにあたって、その支援に努めます。

### 【学校の役割】

学校は、子供たちが学び合う場として、教育活動を組織的に実践し、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育む場となることが求められています。

子供たちの教育に直接携わる教職員は、子供の成長を願い、導くという使命感を持ち、互いに学び合い切磋琢磨することが大切です。

## —教育委員会・学校・家庭・地域の幅広い連携—

### 【家庭の役割】

家庭は、子供に精一杯の愛情を注ぐ心のよりどころであるとともに、家族とのふれあいを通じて、社会を生きていくための前提となる基本的な生活習慣等を身に付ける上で重要な役割を担うなど、すべての教育の出発点です。

親は、子供の教育に対して第一義的な責任を負うことを自覚する必要があります。

### 【地域の役割】

地域は、異なる年代の人々とのふれあい、豊かな自然や社会教育施設での体験を通じて、健全な社会性の育成や郷土を愛する心を育む場として大切な役割を担っています。

安心・安全な地域環境づくりも、積極的な地域の協力が必要であり、地域全体で子供たちの健全な成長を支えることが大切です。

「人づくり」という教育の本質は、家庭や学校など様々な場所や機会で行われており、教育は社会全体で協力して行うものです。学力・体力の低下や道徳性の欠如等、子供たちの教育をめぐる課題に適切に対応するためにも、教育委員会はもとより、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たし、相互に連携していくことが重要です。



## くしろっ子 共に育てる 10 か条



- 1 早ね☆ 早おき☆ 朝ごはん
- 2 元気にあいさつ こんにちは
- 3 みんなでなかよく 外あそび
- 4 失敗おそれず レッツ・チャレンジ
- 5 時間をきめて しっかり勉強
- 6 授業とつながる おさらいノート
- 7 本と仲よし くしろっ子
- 8 楽しい食卓 親子の時間
- 9 言葉づかいは 心づかい
- 10 感謝を込めて ありがとう

このほかに家族で話し合って、我が家の1か条を決めてみましょう！

釧路市 家庭教育

検索